

令和 3 年 5 月 24 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00818

研究課題名(和文)ポリフェノール・パラドックスの解明

研究課題名(英文) Investigation of polyphenol paradox

研究代表者

芦田 均 (Hitoshi, Ashida)

神戸大学・農学研究科・教授

研究者番号：90201889

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,300,000円

研究成果の概要(和文)：ポリフェノールによる疾病予防効果研究において、細胞試験や動物試験で認められた効果が臨床的に実証されないという「ポリフェノール・パラドックス」を解消する基礎研究を実施した。すなわち、1) 生体リズムを考慮した体内動態解析：2) 体内標的分子基盤の解明：3) 組織間クロストークを考慮した機能性解明：4) ナノモル濃度域の新たな機能性解明を行い、ヒト体内に存在できる低濃度域のポリフェノールとその代謝物が多様な生体調節機能を発揮できることと、その機能発現に関する作用機構、組織間クロストーク、標的分子、最適摂取タイミング、ストレス応答についての成果を得た。得られた成果を展開して臨床試験に繋げる基盤構築ができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、多くの研究者らが多面的にポリフェノール研究を実施してきたが、生理的濃度を逸脱している場合が多く、組織間クロストークや体内リズムも考慮されてこなかった。そのために、細胞試験や動物試験で認められた効果が臨床的に実証されないという「ポリフェノール・パラドックス」が生じた。本研究の実施により、低濃度のポリフェノールでこれらの問題点を考慮した研究基盤である「ナノモル・サイエンス」を構築できた。得られた成果を展開して臨床試験に繋げることで「ポリフェノール・パラドックス」を解消でき、ポリフェノールによる疾病予防効果についての研究を飛躍的に発展させることができることから、学術的な波及効果が生じる。

研究成果の概要(英文)：In the studies for the disease prevention effect of polyphenols, we propose a new terminology, the "polyphenol paradox", that the results observed in cultured cell and animal studies are not observed in the clinical trials. To clarify this paradox, we performed 1) pharmacokinetic analysis considering biological rhythm: 2) elucidation of target molecule in the body: 3) elucidation of function considering tissue-tissue crosstalk: 4) elucidation of function in the nanomolar concentration range. We have obtained results on certain polyphenols and their metabolites at the low-concentration that can exist in the body to exert various bioregulatory functions: the molecular mechanism of these functions, tissue-tissue crosstalk, target molecules, optimal ingestion timing, and stress response. We have built a research base foundation for developing the obtained results and applying them to the future clinical trials.

研究分野：食品科学、栄養科学

キーワード：ポリフェノール 生体調節機能 標的分子 生体リズム 体内動態

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

植物性食品に含まれている多種・多様なポリフェノールが、疾病の予防・改善に繋がる機能を有することは、多くの細胞試験や動物試験で実証されており、その報告数は、**2000**年以降、急速に増加している。しかしながら、細胞試験で得られた結果と動物試験や臨床試験の結果には乖離があることが多く、ヒトでの有効性を証明するための障壁となっている。これを「ポリフェノール・パラドックス」という。多くの研究者がこのパラドックス解明に取り組んでいるが、全貌解明には至っていない。

我々は、これまでの研究成果から、ポリフェノール・パラドックスが生じる要因の中でも特に重要なのは次の**3**つであると考えている。すなわち、吸収・代謝を含む体内動態、脳腸相関などの組織間クロストーク、体内時計に制御されている生体リズムであり、これら**3**つの要因への影響を解明することで真のポリフェノールの機能性を明らかにすることができると想定した。以下に背景と問題点を列記する。

体内動態：ポリフェノールの体内動態に関しては多くの報告がすでになされている。しかしながら、「培養細胞実験系で機能性が実証されている濃度域」と「動物実験や臨床試験で報告されている体内濃度域」は乖離している。また、ポリフェノールは代謝変換を受けるが、真の活性本体が知られているのは、ダイゼインの腸管内代謝物であるエクオールなど限られた例しかなく、活性本体とその分子標的の解明が必要である。

組織間クロストーク：プロシアニジンなどの重合ポリフェノールは難吸収性であるにもかかわらず、循環系・代謝系に作用する報告があるが、未だ知見は十分でなく、特に交感神経系や腸脳相関など組織間でのクロストークを理解する必要がある。

生体リズム：生物には体内時計が存在しているため、多くの生命現象は日内変動を示す。例えば、ポリフェノール代謝に関与しているシトクロム **P450** や硫酸転移酵素などの薬物代謝系酵素の発現量は活動期の直前に高まる。つまり、ポリフェノールの体内動態や挙動の追跡は、摂取する時間帯を考慮に入れて実施する必要がある。

2. 研究の目的

ポリフェノールの疾病の予防・改善に繋がる機能は、細胞試験で得られた結果と動物試験や臨床試験の結果には乖離があることが多く、臨床試験での有効性検証の障壁となっている。これを「ポリフェノール・パラドックス」という。この原因としては、ポリフェノールの吸収・代謝を含む体内動態の違い、脳腸相関などの組織間クロストークの有無、ならびにヒトと動物での生体リズムの違いが考えられるが、全貌解明には至っていない。そこで本研究では、この「ポリフェノール・パラドックス」を解明することを目的とする。すなわち、ポリフェノールの活性本体・有効濃度域、組織間クロストーク、ならびに体内リズムへの影響を生化学的・分子生物学的手法を駆使して総合的に解析し、疾病予防や健康維持に繋がる科学的根拠の分子基盤となる「ナノモル・サイエンス」の構築を目指す。特に、日常的に摂取しているポリフェノールが生体内濃度(ナノモル域)で我々の体内のどの部位でどのような作用を發揮しているのかを解明する。これは食事性ポリフェノールの疾病予防の観点から重要かつ喫緊に取り組むべき研究課題であり、また、ポリフェノール・パラドックスを解明するために必要な研究基盤「ナノモル・サイエンス」の構築にも繋がると捉えている。

3. 研究の方法

研究を進めるにあたって、以下の4つの中課題と7つの小課題を設定した。以下にそれぞれについて実施した方法を記載する。

中課題：生体リズムを考慮した体内動態解析

(1) 体内動態の網羅的解析

日本人が摂取する機会が多いポリフェノールやポリフェノール高含有組成物をマウスに経口投与し、血液および尿、各種臓器を採取し、ポリフェノールの体内動態を解析した。また、体内時計とポリフェノールの体内動態の関わりについても検討した。

(2) 真の活性本体の解析

被験ポリフェノールについて、代謝物を含めた真の活性本体の解析を行い、中課題 体内標的分子基盤の解明と中課題 ナノモル濃度域の新たな機能性解明に繋げた。

中課題：体内標的分子基盤の解明

(3) 標的分子基盤の解明

被験ポリフェノールをビーズに化学結合させたポリフェノール結合ビーズを用いて、培養細胞や動物組織の抽出液からナノモル濃度域でポリフェノールと結合するタンパク質を網羅的に探索・同定した。また、新たにナノモル濃度域の標的分子の網羅的解析法を確立するために、<1>標的タンパク質の蛍光イメージング法の開発、<2>ポリフェノール付加タンパク質の高選択的アフィニティー精製法の構築と、<3>新規標識ケミカルプローブの開発を行った。また、ポリフェノールが標的とするタンパク質の二次元マップを作成した。

標的タンパク質を二次元電気泳動法と質量分析法等により標的タンパク質を同定し、標的タンパク質とポリフェノールとの結合解析や付加部位および修飾構造についての解析、ならびに

ドッキング・シミュレーションを行った。

(4) 動物実験での標的分子の検証

In vitro 試験や培養細胞試験で得られた標的分子を、動物実験により検証した。

中課題：組織間クロストークを考慮した機能性解明

(5) 難吸収性ポリフェノールの中枢を介した構造的維持機能の解明

「ポリフェノールは吸収されずとも交感神経刺激を介して機能性を惹起し得る」との観点から、難吸収性ポリフェノールであるプロシアニジン 4 量体 **cinnamtannin A2** を用いて、交感神経から分泌されるアドレナリンが血流改善に関わることとその作用機構を解明した。

(6) 難吸収性ポリフェノールの腸管を介した末梢組織での機能解明

cinnamtannin A2 による腸管ホルモンの分泌促進を介した高血糖抑制作用や、2 週間のマウスへの経口投与で白色脂肪細胞でのベージュ化作用と筋細胞の分化と増殖について検討した。

中課題：ナノモル濃度域の新たな機能性解明

(7) 培養細胞・実験動物を利用した代謝系・ストレス応答系への作用機構解明

1) ナノモル濃度域で糖代謝系、脂質代謝系、薬物代謝系への有効性を発揮するポリフェノールの探索と有効性を示したポリフェノールの作用機構解明について培養細胞を用いて実施した。また、有効性を発揮したポリフェノールについては、マウスを用いた動物実験での検証も実施した。

2) ナノモル濃度域でストレス応答系へ作用するポリフェノールの探索と作用機構解明については、腸管細胞を用いて、ストレスにより誘導される **70 kDa heat shock protein (HSP70)** の発現量を上昇させるポリフェノールを検索した。また、タマネギなどに含まれているフラボノイドである **quercetin** を用いて、免疫応答や血液凝固などさまざまなプロセスに関与する細胞外小胞への内包について検討した。

4. 研究成果

中課題：生体リズムを考慮した体内動態解析

本研究の実施により、摂取時間の違いによりポリフェノールの体内動態と機能性が変化すること、ポリフェノールの機能性発現に最適な摂取タイミングがあること、ポリフェノールの体内動態と関連して血中ホルモンが生体リズムを刻むこと、生体リズムの乱れをポリフェノールが改善できることを見出した。

すなわち、フラバン 3-オールであるプロシアニジン類の高感度測定法を開発し、プロシアニジン高含有のクロダイズポリフェノールをマウスに経口投与したときの体内動態を明らかにした。また、すでにプロシアニジンが高血糖や肥満を抑制できることを報告しているが、新たにクロダイズポリフェノールの日常的摂取が脂質異常症を予防できることを見出した。この脂質異常症に関わる脂肪酸代謝系の遺伝子発現が概日リズムを刻んでいることも見出した。プロシアニジンの高血糖抑制効果には、最適な摂取タイミングがあり、休眠期前の投与で効果が発揮されること、プロシアニジンの体内動態と関連して血中の **gastric inhibitory Peptide (GIP)** や **C-peptide** が概日リズムを刻むことが判った。これらのペプチドに加えて、腸管インクレチンホルモンの一つである **glucagon-like peptide-1 (GLP-1)** の測定系の開発に成功し、クロダイズポリフェノールと同様にプロシアニジン高含有のカカオポリフェノール組成物が、**GLP-1** 分泌を促進するとともに、時計遺伝子である **Period** の発現を増加させ、この増加が **GLP-1** 阻害剤でキャンセルさせることが判った。

アントシアニン類についても、摂取時間により体内動態が異なり、継続摂取により吸収量が上昇することも見出した。**luteolin** についても最適な摂取タイミングがあり、摂取時間により体内動態が異なり、それに伴って薬物代謝系第 2 相酵素の発現が変化することを見出した。逆に **benzo[a]pyrene** による概日リズムの乱れを **luteolin** や **kaempferol** などのフラボノイドが改善することと、その作用機構を解明した。**quercetin** についてはライフステージでの動態試験を実施し、妊娠母体が **quercetin** を摂取すると、次世代のコレステロール代謝が変動するが、授乳中の次世代マウスの血中からは **quercetin** が検出されなかった。このことは、**quercetin** の体内動態が低いことに起因すると考えている。

中課題：体内標的分子基盤の解明

本研究の実施により、以下のことが達成できた。ポリフェノールの標的タンパク質を探索する複数の解析技術を確立し、カテキンなどのポリフェノールの標的タンパク質を見出すとともに、結合機構の解析に成功した。網羅的なプロテオミクス解析を実施し、ポリフェノールの標的タンパク質の二次元マップを作成した。標的タンパク質を介したポリフェノールの機能についての作用機構を解明した。

すなわち、ポリフェノールの標的タンパク質を探索する解析技術として、<1>標的タンパク質の蛍光イメージング法の開発、<2>ポリフェノール付加タンパク質の高選択的アフィニティー精製法の構築と、<3>新規標識ケミカルプローブの開発に成功した。また、確立したポリフェノール付加タンパク質の解析技術を基盤とした網羅的なプロテオミクス解析を実施するとともに、培養細胞レベルでポリフェノールの標的タンパク質の同定に成功し、二次元マップを作成した。

さらに、開発した技術を用いて同定した標的タンパク質である **protein disulfide isomerase** へのポリフェノール付加が基質であるインスリンの分解を阻害し、インスリン感受性を向上させる新規抗糖尿病分子機構を明確にした。

代表的な茶カテキンである **epigallocatechin gallate (EGCG)** について、この化合物と結合するタンパク質のみを選択的に吸着・脱着し解析する方法を確立し、**EGCG** の標的タンパク質を見出した。また、カテキン類やテアフラビン類と相互作用する細胞膜標的タンパク質の分子挙動を解析し、ガレート型テアフラビン類が可逆的共有結合を伴う付加反応により膜タンパク質を凝集させる作用機構を見出した。一方で、レドックス染色と古典的な二次元電気泳動、結合タンパク質の **Peptide mass fingerprinting** 法と **Mascot** 解析から、中課題の研究結果に示した **EGCG** による高血糖予防に関わる標的タンパク質として **Creatine kinase M-type (CKM)** を見出し、動物実験による検証とドッキング・シミュレーションによる結合解析を行った。さらに **CKM** と相互作用するトロニン受容体として見出された **protease activated receptor 1** が真の標的分子である可能性を得た。また、**EGCG** と結合することが知られている血清アルブミンとのドッキング・シミュレーションから、アルブミンの薬物結合サイトのトリプトファン残基に **EGCG** の **D** 環が π -スタッキングで結合することを明らかにした。

中課題：組織間クロストークを考慮した機能性解明

「ポリフェノールは吸収されずとも交感神経刺激を介して機能性を惹起し得る」との観点からの研究を実施し、難吸収性ポリフェノールがナノモル濃度域で機能性を発現する機構を解明できた。難吸収性ポリフェノールとして、**epicatechin** 四量体である **cinnamtannin A2** に着目して研究を実施し、**cinnamtannin A2** が腸脳相関を介して中枢神経系に影響を与えることで恒常性の維持に寄与することを明らかにした。

その結果、**cinnamtannin A2** は消化吸収を経ることなく低濃度域での摂食刺激により視床下部に投射されることで交感神経を活性化させ、血中アドレナリン濃度の上昇を介して血流改善をもたらすとともに、ストレス応答反応を惹起させることが判った。**Cinnamtannin A2** の作用は、3量体のそれより **1000** 倍高いことを明らかにした。血流改善効果の作用機構としては、血管内皮細胞における **endothelial nitric oxide synthase (eNOS)** の発現上昇を介した血中の **NO** の上昇が関与することが判った。**Cinnamtannin A2** を含むカカオポリフェノール組成物でも血管内皮細胞における **NO** 産生の増加が認められ、この作用は腸管インクレチンホルモンの一つである **GLP-1** 分泌促進を介した作用であることを見出した。さらに、煎りクロダイズとクロダイズきな粉含有クッキーを用いて、当初計画になかった2つのヒト試験を実施し、クロダイズの摂取が **NO** 産生と酸化ストレスの軽減を介して血管機能を改善させることを実証した。

さらに詳細な作用機構解明の結果、カテキンオリゴマー画分(**10 mg/kg**)またはカテキン四量体である **cinnamtannin A2 (100 μ g/kg)** をマウスに強制経口投与した直後に抜脳し、サジタル面で凍結切片を作成し、ノルアドレナリン動態を質量イメージング法で観察したところ、青斑核・脳幹・視床下部に顕著なノルアドレナリンシグナルが観察された。またノルアドレナリン合成酵素およびトランスポーターの mRNA 発現を ISH 法で検出したところ、青斑核においてのみ著明な発現上昇が観察されたことから、ノルアドレナリンは青斑核から脳各部位に投射されたものであることが判った。マウスから採取した全尿中の(ノル)アドレナリンおよび代謝物を LC-MS/MS を用いて測定したところ、顕著な排泄の増加が確認された。

また、上記のカテキンオリゴマー画分または **cinnamtannin A2** を2週間反復経口投与した後、摘出した鼠径部脂肪においては、細胞サイズの顕著な縮小および脂肪滴の多房化といったベージュ化像が、後肢骨格筋においては、筋衛星細胞から筋芽細胞への分化および増殖像が認められた。これらは、ポリフェノールによる肥満抑制ならびに筋肉増強に関わる新たな作用機構解明に繋がる結果である。また、**cinnamtannin A2** の腸管ホルモン **GLP-1** 分泌を介した機能性として脳のホルモン調節を介した摂食抑制に繋がることを示唆する結果も得た。

中課題：ナノモル濃度域の新たな機能性解明

ナノモル濃度域の新たな機能性解明として、培養細胞・実験動物を用いて、代謝系(糖代謝系、脂質代謝系、薬物代謝系)に有効性を発揮するポリフェノールと、ストレス応答系へ作用するポリフェノールを探索し、有効性が認められたポリフェノールについて作用機構解明を行い、動物実験で有効性を検証した。

代謝系への作用については、**L6** 筋管細胞へのグルコース取り込み促進に有効なポリフェノールの探索を実施したところ、**EGCG**、**quercetin**、**isorhamnetin**、ならびに **kaempferol** がナノモル濃度域(**1 nM**)で有効性を示した。そこで、これらのポリフェノールそれぞれについて作用機構を解明することに成功した。**EGCG** は、インスリン受容体は介さないが、その下流の **phosphatidylinositol-3 kinase (PI3K)** の活性化と **AMP-activated protein kinase** の活性化を介して **glucose transporter type 4 (GLUT4)** を細胞膜移行させてグルコース取り込み促進効果を示した。この **EGCG** の作用に関わる標的タンパク質の解明も行った(中課題の研究成果参照)。

EGCG はマウスでの経口糖負荷試験でも高血糖抑制効果を示すとともにマウス筋肉で作用機構を検証できた。さらに、**EGCG** を多く含む緑茶抽出物の摂取により、**1** 型並びに **2** 型糖尿病モデル動物で高血糖状態を改善できることとグリケーションの指標が低下することを明らかにした。**Quercetin** とその代謝物である **isorhamnetin** については、異なる作用機構が存在した。**Quercetin** は CaMKK8/AMPK 経路と **PI3K/Akt** 経路を介して **GLUT4** を細胞膜移行させてグルコース取り込みを促進するのに対し、代謝物の **isorhamnetin** は **JAK/STAT** 経路を介して作用することが判った。また、**quercetin** をマウスに経口投与しても血中で検出できなかったが、配糖体を経口投与(**10 mg/kg**)したとき、**quercetin** が約 **5 nM** 検出され、この時、**GLUT4** の細胞膜移行も検証できた。**Kaempferol** によるグルコース取り込みと **GLUT4** の細胞膜移行の促進作用は、**AMPK** 経路、**PI3K** 経路、**JAK/STAT** 経路のいずれをも活性化させたが、**siRNA** を用いた検討から **JAK/STAT** 経路が上流で他の経路を支配していることが判った。また、**quercetin** 配糖体は高脂肪食が誘導する肥満・高血糖を抑制することと、この作用機構を解明した。

脂肪細胞の分化抑制に有効なポリフェノールの探索も **3T3-L1** 脂肪細胞を用いて実施したが、ナノモル域で有効性を示す化合物はなく、マイクロモル域の濃度が必要であることが判った。脂肪細胞のベージュ化について **3T3-L1** 脂肪細胞を用いてすでに生物学的利用能が高いアシタバ由来プレニル化カルコンである **4-hydroxyderricin** と **xanthoangelol** を用いて検討し、作用機構解明まで実施したが、有効濃度はマイクロモル域であった。一方で、培養細胞試験は実施していないが、ホップに含まれるプレニル化フラボノイドの **xanthohumol** の代謝物である **8-prenylnaringenin** の肥満予防効果を動物実験で検証した。**8-Prenylnaringenin** を極めて低濃度である **0.0005%** あるいは **0.005%** で高脂肪食に混飼した飼育実験で肥満抑制効果が認められた。

薬物代謝酵素発現については、これまでの研究で **2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin** が誘導する薬物代謝酵素発現をマイクロモル域の高濃度で **luteolin** や **kaempferol** が抑制できることを明らかにしていたため、**luteolin** そのものが薬物代謝酵素を誘導できるか否かをヒト肝がん由来 **HepG2** 細胞を用いて検証した。その結果、**luteolin** は **10 pM** から **1 pM** で **heme oxygenase-1** や **NAD(P)H quinone oxidoreductase 1** などの薬物代謝第 2 相酵素の発現を誘導することを見出し、その作用機構解明として低濃度の **luteolin** が **ERK1/2** 経路を介して **Nrf2** のリン酸化を促進し、また、**Keap1** の構造を変化させることで **Nrf2** を分解から保護することで下流の薬物代謝第 2 相酵素の発現量を増加させることが判った。また、この効果はマウスへの投与実験で検証し、この際に適した投与タイミングがあることが判った(中課題 の研究成果参照)。

ストレス応答系への作用については、ヒト大腸がん細胞である **HT-29** 細胞を用いた探索試験において、プレニル化カルコンである **4-hydroxyderricin** と **xanthoangelol** が **HSP70** タンパク質を誘導することを見出した。同じく **HT-29** 細胞に **quercetin** を処理するにより、分泌された細胞外小胞に数十 **nM** の **quercetin** とそのメチル化体が存在することを初めて見出した。また、**quercetin** 単回投与ラット血清中の細胞外小胞に内包されている **quercetin** が検出できた。さらに、**quercetin** を内包させた細胞外小胞が、内包させない場合(遊離体)に比べ **RAW264.7** マクロファージへの取り込み率が遥かに高いことを見出したが、**NO** 産生の抑制作用は確認できなかった。この原因として、内包時におけるケルセチンの化学分解が想定できた。そこで、**apigenin**、**genistein**、**nobiletin**、**EGCG** の化学的安定性を評価したところ、**genistein** と **nobiletin** は **quercetin** より有意に安定であった。そこで、**genistein** に着目し、ポリフェノール内包細胞外小胞の調製法を確立することに成功した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計76件（うち査読付論文 69件／うち国際共著 6件／うちオープンアクセス 25件）

1. 著者名 Hironao Ken-yu, Ashida Hitoshi, Yamashita Yoko	4. 巻 67
2. 論文標題 The cacao procyanidin extract-caused anti-hyperglycemic effect was changed by the administration timings	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition	6. 最初と最後の頁 61～66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3164/jcfn.20-45	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Jiang Hao, Horiuchi Yuko, Hironao Ken-yu, Kitakaze Tomoya, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi	4. 巻 67
2. 論文標題 Prevention effect of quercetin and its glycosides on obesity and hyperglycemia through activating AMPK in high-fat diet-fed ICR mice	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition	6. 最初と最後の頁 75～83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3164/jcfn.20-47	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hironao Ken-yu, Mitsuhashi Yuji, Huang Shujiao, Oike Hideaki, Ashida Hitoshi, Yamashita Yoko	4. 巻 67
2. 論文標題 Cacao polyphenols regulate the circadian clock gene expression and through glucagon-like peptide-1 secretion	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition	6. 最初と最後の頁 53～60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3164/jcfn.20-38	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Kitakaze Tomoya, Makiyama Atsushi, Nakai Rika, Kimura Yuki, Ashida Hitoshi	4. 巻 11
2. 論文標題 Kaempferol modulates TCDD- and t-BHQ-induced drug-metabolizing enzymes and luteolin enhances this effect	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Food & Function	6. 最初と最後の頁 3668～3680
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1039/c9fo02951f	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita Yoko, Wang Liuqing, Nakamura Asuka, Nanba Fumio, Saito Shizuka, Toda Toshiya, Nakagawa Junichi, Ashida Hitoshi	4. 巻 688
2. 論文標題 Black soybean improves the vascular function through an increase in nitric oxide and a decrease in oxidative stress in healthy women	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Archives of Biochemistry and Biophysics	6. 最初と最後の頁 108408 ~ 108408
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.abb.2020.108408	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshioka Yasukiyo, Samukawa Yumi, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi	4. 巻 11
2. 論文標題 4-Hydroxyderricin and xanthoangelol isolated from Angelica keiskei prevent dexamethasone-induced muscle loss	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Food & Function	6. 最初と最後の頁 5498 ~ 5512
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/d0fo00720j	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi Daiki, Wang Liuqing, Ueda Shuji, Yamanoue Minoru, Ashida Hitoshi, Shirai Yasuhito	4. 巻 10
2. 論文標題 The mechanisms of ameliorating effect of a green tea polyphenol on diabetic nephropathy based on diacylglycerol kinase	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 11790
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-68716-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kitakaze Tomoya, Jiang Hao, Nomura Takuya, Hironao Ken-yu, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi	4. 巻 68
2. 論文標題 Kaempferol Promotes Glucose Uptake in Myotubes through a JAK2-Dependent Pathway	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Agricultural and Food Chemistry	6. 最初と最後の頁 13720 ~ 13729
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.jafc.0c05236	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Domae Chiaki, Ashida Hitoshi, Yamashita Yoko	4. 巻 10
2. 論文標題 Black soybean seed coat polyphenols promote nitric oxide production in the aorta through the Akt/eNOS pathway	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Functional Foods in Health and Disease	6. 最初と最後の頁 330 ~ 330
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31989/ffhd.v10i8.722	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita Yoko, Nakamura Asuka, Nanba Fumio, Saito Shizuka, Toda Toshiya, Nakagawa Junichi, Ashida Hitoshi	4. 巻 12
2. 論文標題 Black Soybean Improves Vascular Function and Blood Pressure: A Randomized, Placebo Controlled, Crossover Trial in Humans	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nutrients	6. 最初と最後の頁 2755 ~ 2755
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu12092755	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita Yoko, Sakakibara Hiroyuki, Toda Toshiya, Ashida Hitoshi	4. 巻 11
2. 論文標題 Insights into the potential benefits of black soybean (Glycine max L.) polyphenols in lifestyle diseases	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Food & Function	6. 最初と最後の頁 7321 ~ 7339
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/d0fo01092h	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka Wataru, Matsuyama Hiroki, Yokoyama Daigo, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi, Sakono Masanobu, Sakakibara Hiroyuki	4. 巻 72
2. 論文標題 Daily consumption of black soybean (Glycine max L.) seed coat polyphenols attenuates dyslipidemia in apolipoprotein E-deficient mice	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Functional Foods	6. 最初と最後の頁 104054 ~ 104054
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jff.2020.104054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuyama Hiroki, Tanaka Wataru, Miyoshi Noriyuki, Miyazaki Tatsuo, Michimoto Hideyuki, Sakakibara Hiroyuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Beneficial effects of the consumption of sun dried radishes (Raphanus sativus cv. YR Hyuga Risou) on dyslipidemia in apolipoprotein E deficient mice	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Food Biochemistry	6. 最初と最後の頁 e13727
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jfbc.13727	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashima Masakatsu, Tanaka Wataru, Matsuyama Hiroki, Tajiri Hayato, Sakakibara Hiroyuki	4. 巻 13
2. 論文標題 Maternal Quercetin Consumption during Pregnancy May Help Regulate Total Cholesterol/HDL-Cholesterol Ratio without Effect on Cholesterol Levels in Male Progeny Consuming High-Fat Diet	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nutrients	6. 最初と最後の頁 1242 ~ 1242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu13041242	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 榊原啓之	4. 巻 331
2. 論文標題 マウスも夜はストレスと闘っています	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 調査月報	6. 最初と最後の頁 2 ~ 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Halib Hasmiza, Ismail Amin, Mohd Yusof Barakatun-Nisak, Osakabe Naomi, Mat Daud Zulfitri Azuan	4. 巻 12
2. 論文標題 Effects of Cocoa Polyphenols and Dark Chocolate on Obese Adults: A Scoping Review	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nutrients	6. 最初と最後の頁 3695 ~ 3695
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu12123695	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 AIHARA Yoshiko, FUKUDA Yota, TAKIZAWA Akiyoshi, OSAKABE Naomi, AIDA Tomomi, TANAKA Kohichi, YOSHIKAWA Soichiro, KARASUYAMA Hajime, ADACHI Takahiro	4. 巻 39
2. 論文標題 Visualization of mechanical stress-mediated Ca ²⁺ signaling in the gut using intravital imaging	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bioscience of Microbiota, Food and Health	6. 最初と最後の頁 209 ~ 218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12938/bmfh.2019-054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 WADA Ryotaro, TAKAHASHI Shota, MUGURUMA Hitoshi, OSAKABE Naomi	4. 巻 37
2. 論文標題 Electrochemical Analysis of Coffee Extractions at Different Roasting Levels Using a Carbon Nanotube Electrode	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Analytical Sciences	6. 最初と最後の頁 377 ~ 380
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2116/analsci.20N021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 WADA Ryotaro, TAKAHASHI Shota, MUGURUMA Hitoshi, OSAKABE Naomi	4. 巻 36
2. 論文標題 Electrochemical Detection of Curcumin in Food with a Carbon Nanotube-Carboxymethylcellulose Electrode	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Analytical Sciences	6. 最初と最後の頁 1113 ~ 1118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2116/analsci.20P021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koizumi Ryo, Fushimi Taiki, Sato Yuki, Fujii Yasuyuki, Sato Hiroki, Osakabe Naomi	4. 巻 22
2. 論文標題 Relationship between hemodynamic alteration and sympathetic nerve activation following a single oral dose of cinnamtannin A2	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Free Radical Research	6. 最初と最後の頁 1 ~ 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10715762.2020.1759805	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井靖之、越阪部奈緒	4. 巻 2020 年第 1 号
2. 論文標題 ポリフェノール~二次機能と三次機能のクロストーク~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ソフト・ドリンク技術資料	6. 最初と最後の頁 79 ~ 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井靖之、越阪部奈緒美	4. 巻 9
2. 論文標題 脳 - 消化管軸を介したプロシアニジンの生体調節作用の解明	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本ポリフェノール学会誌	6. 最初と最後の頁 35 ~ 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suihara Satoki, Ishisaka Akari, Murakami Akira	4. 巻 85
2. 論文標題 (-)-Epigallocatechin-3-O-gallate at a high concentration may induce lipolysis via ATP consumption by activation of stress defense mechanisms	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry	6. 最初と最後の頁 411 ~ 420
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/bbb/zbaa056	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murakami Akira	4. 巻 6
2. 論文標題 Hormesis-Mediated Mechanisms Underlying Bioactivities of Phytochemicals	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Current Pharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 325 ~ 334
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40495-020-00235-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kitakaze Tomoya, Makiyama Atsushi, Samukawa Yumi, Jiang Songyan, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi	4. 巻 663
2. 論文標題 A physiological concentration of luteolin induces phase II drug-metabolizing enzymes through the ERK1/2 signaling pathway in HepG2 cells	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Archives of Biochemistry and Biophysics	6. 最初と最後の頁 151 ~ 159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.abb.2019.01.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshioka Yasukiyo, Kubota Yusuke, Samukawa Yumi, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi	4. 巻 664
2. 論文標題 Glabridin inhibits dexamethasone-induced muscle atrophy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Archives of Biochemistry and Biophysics	6. 最初と最後の頁 157 ~ 166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.abb.2019.02.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jiang Hao, Yoshioka Yasukiyo, Yuan Sihao, Horiuchi Yuko, Yamashita Yoko, Croft Kevin D., Ashida Hitoshi	4. 巻 10
2. 論文標題 Enzymatically modified isoquercitrin promotes energy metabolism through activating AMPK in male C57BL/6 mice	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Food & Function	6. 最初と最後の頁 5188 ~ 5202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/c9fo01008d	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Domae Chiaki, Nanba Fumio, Maruo Toshinari, Suzuki Toshio, Ashida Hitoshi, Yamashita Yoko	4. 巻 10
2. 論文標題 Black soybean seed coat polyphenols promote nitric oxide production in the aorta through glucagon-like peptide-1 secretion from the intestinal cells	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Food & Function	6. 最初と最後の頁 7875 ~ 7882
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/c9fo02050k	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kitakaze Tomoya, Makiyama Atsushi, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi	4. 巻 15
2. 論文標題 Low dose of luteolin activates Nrf2 in the liver of mice at start of the active phase but not that of the inactive phase	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0231403
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0231403	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Matsuyama, Wataru Tanaka, Daigo Yokoyama, Shoji Matsumoto, Takashi Sano, Takatoshi Yamashita, Saki Nishimura, Masanobu Sakono, Hiroyuki Sakakibara	4. 巻 3
2. 論文標題 Suitability of a 10% fat diet for use in time-restricted feeding experiments with C57BL/6 mice	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bioactive Compounds in Health and Disease	6. 最初と最後の頁 55 ~ 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshimura Hiroshi, Hirota Yoshihisa, Soda Seiya, Okazeri Mayu, Takagi Yuta, Takeuchi Atsuko, Tode Chisato, Kamao Maya, Osakabe Naomi, Suhara Yoshitomo	4. 巻 30
2. 論文標題 Study on structure-activity relationship of vitamin K derivatives: Conversion of the naphthoquinone part into another aromatic ring and evaluation of their neuronal differentiation-inducing activity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	6. 最初と最後の頁 127059 ~ 127059
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bmcl.2020.127059	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishimura Yuya, Fukuda Yota, Okonogi Toya, Yoshikawa Soichiro, Karasuyama Hajime, Osakabe Naomi, Ikegaya Yuji, Sasaki Takuya, Adachi Takahiro	4. 巻 524
2. 論文標題 Dual real-time in vivo monitoring system of the brain-gut axis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 340 ~ 345
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2020.01.090	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishioka Tatsuma, Endo-Umeda Kaori, Ito Yuki, Shimoda Akane, Takeuchi Atsuko, Tode Chisato, Hirota Yoshihisa, Osakabe Naomi, Makishima Makoto, Suhara Yoshitomo	4. 巻 24
2. 論文標題 Synthesis and In Vitro Evaluation of Novel Liver X Receptor Agonists Based on Naphthoquinone Derivatives	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Molecules	6. 最初と最後の頁 4316 ~ 4316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/molecules24234316	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujii Yasuyuki, Suhara Yoshitomo, Sukikara Yusuke, Teshima Tomohiro, Hirota Yoshihisa, Yoshimura Kenjiro, Osakabe Naomi	4. 巻 24
2. 論文標題 Elucidation of the Interaction between Flavan-3-ols and Bovine Serum Albumin and Its Effect on Their In-Vitro Cytotoxicity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Molecules	6. 最初と最後の頁 3667 ~ 3667
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/molecules24203667	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Shota, Muguruma Hitoshi, Osakabe Naomi, Inoue Hitoshi, Ohsawa Tatsuya	4. 巻 300
2. 論文標題 Electrochemical determination with a long-length carbon nanotube electrode of quercetin glucosides in onion, apple peel, and tartary buckwheat	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Food Chemistry	6. 最初と最後の頁 125189 ~ 125189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.foodchem.2019.125189	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujii Yasuyuki, Suzuki Kenta, Adachi Takahiro, Taira Shu, Osakabe Naomi	4. 巻 65
2. 論文標題 Corticotropin-releasing hormone is significantly upregulated in the mouse paraventricular nucleus following a single oral dose of cinnamtannin A2 as an (-)-epicatechin tetramer	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition	6. 最初と最後の頁 29 ~ 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3164/jcbrn.19-19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kitakaze Tomoya, Makiyama Atsushi, Samukawa Yumi, Jiang Songyan, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi	4. 巻 663
2. 論文標題 A physiological concentration of luteolin induces phase II drug-metabolizing enzymes through the ERK1/2 signaling pathway in HepG2 cells	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Archives of Biochemistry and Biophysics	6. 最初と最後の頁 151 ~ 159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.abb.2019.01.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita Yoko, Okabe Masaaki, Natsume Midori, Ashida Hitoshi	4. 巻 8
2. 論文標題 Cacao liquor procyanidins prevent postprandial hyperglycaemia by increasing glucagon-like peptide-1 activity and AMP-activated protein kinase in mice	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Nutritional Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/jns.2018.28	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jiang Hao, Yamashita Yoko, Nakamura Asuka, Croft Kevin, Ashida Hitoshi	4. 巻 9
2. 論文標題 Quercetin and its metabolite isorhamnetin promote glucose uptake through different signalling pathways in myotubes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 2690 ~ 2690
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-38711-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takagaki Akiko, Yoshioka Yasukiyo, Yamashita Yoko, Nagano Tomoya, Ikeda Masaki, Hara-Terawaki Aya, Seto Ryota, Ashida Hitoshi	4. 巻 42
2. 論文標題 Effects of Microbial Metabolites of (-)-Epigallocatechin Gallate on Glucose Uptake in L6 Skeletal Muscle Cell and Glucose Tolerance in ICR Mice	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Biological and Pharmaceutical Bulletin	6. 最初と最後の頁 212 ~ 221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1248/bpb.b18-00612	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wang Liuqing, Yamashita Yoko, Komeda Shingo, Saito Akiko, Ashida Hitoshi	4. 巻 9
2. 論文標題 Absorption, metabolism, distribution and faecal excretion of B-type procyanidin oligomers in mice after a single oral administration of black soybean seed coat extract	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Food & Function	6. 最初と最後の頁 5362 ~ 5370
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/c8fo00852c	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ueda-Wakagi Manabu, Hayashibara Kaori, Nagano Tomoya, Ikeda Masaki, Yuan Sihao, Ueda Shuji, Shirai Yasuhito, Yoshida Ken-ichi, Ashida Hitoshi	4. 巻 9
2. 論文標題 Epigallocatechin gallate induces GLUT4 translocation in skeletal muscle through both PI3K- and AMPK-dependent pathways	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Food & Function	6. 最初と最後の頁 4223 ~ 4233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/c8fo00807h	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YAMASHITA Yoko, MITANI Takakazu, WANG Liuqing, ASHIDA Hitoshi	4. 巻 64
2. 論文標題 Methylxanthine Derivative-Rich Cacao Extract Suppresses Differentiation of Adipocytes through Downregulation of PPAR and C/EBPs	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Nutritional Science and Vitaminology	6. 最初と最後の頁 151 ~ 160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3177/jnsv.64.151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maeda Ayumi, Shirao Takeshi, Shirasaya Daishi, Yoshioka Yasukiyo, Yamashita Yoko, Akagawa Mitsugu, Ashida Hitoshi	4. 巻 62
2. 論文標題 Piperine Promotes Glucose Uptake through ROS-Dependent Activation of the CAMKK/AMPK Signaling Pathway in Skeletal Muscle	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Molecular Nutrition & Food Research	6. 最初と最後の頁 1800086
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/mnfr.201800086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mitani Takakazu, Takaya Tomohide, Harada Naoki, Katayama Shigeru, Yamaji Ryoichi, Nakamura Soichiro, Ashida Hitoshi	4. 巻 646
2. 論文標題 Theophylline suppresses interleukin-6 expression by inhibiting glucocorticoid receptor signaling in pre-adipocytes	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Archives of Biochemistry and Biophysics	6. 最初と最後の頁 98 ~ 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.abb.2018.04.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nohara Chiaki, Yokoyama Daigo, Tanaka Wataru, Sogon Tetsuya, Sakono Masanobu, Sakakibara Hiroyuki	4. 巻 66
2. 論文標題 Daily Consumption of Bilberry (Vaccinium myrtillus L.) Extracts Increases the Absorption Rate of Anthocyanins in Rats	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Agricultural and Food Chemistry	6. 最初と最後の頁 7958 ~ 7964
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.jafc.8b02404	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yokoyama Daigo, Tanaka Wataru, Hashizume Yushi, Tandia Mahamadou, Sakono Masanobu, Shimoi Kayoko, Hiroyuki Sakakibara	4. 巻 8
2. 論文標題 Daily consumption of monoglucosyl rutin prevents high-fat diet-induced obesity by suppressing gastric inhibitory polypeptide secretion in mice	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Functional Foods in Health & Disease	6. 最初と最後の頁 353 ~ 371
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuura Yasushi, Sakakibara Hiroyuki, Kawaguchi Maho, Murayama Emi, Yokoyama Daigo, Yukizaki Chizuko, Kunitake Hisato, Sakono Masanobu	4. 巻 8
2. 論文標題 Effects of blueberry leaf and stem extracts on hepatic lipid levels in rats consuming a high-sucrose diet	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Functional Foods in Health & Disease	6. 最初と最後の頁 447 ~ 461
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka Wataru, Yokoyama Daigo, Matsuura Yasushi, Nozaki Masahiko, Hirozawa Naoya, Kunitake Hisato, Sakono Masanobu, Sakakibara Hiroyuki	4. 巻 6
2. 論文標題 Subchronic toxicity evaluation of leaves from rabbiteye blueberry (<i>Vaccinium virgatum</i> Aiton) in rats	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Toxicology Reports	6. 最初と最後の頁 272 ~ 278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.toxrep.2019.03.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 榊原啓之, 田中航	4. 巻 3
2. 論文標題 体内時計が刻むリズムと講義中の居眠りの関係を考えてみる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮崎大学 教育・学生支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 35 ~ 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上 明	4. 巻 8
2. 論文標題 ファイトケミカルの標的分子と作用機構	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食と医療	6. 最初と最後の頁 14 ~ 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Osakabe Naomi, Terao Junji	4. 巻 76
2. 論文標題 Possible mechanisms of postprandial physiological alterations following flavan 3-ol ingestion	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nutrition Reviews	6. 最初と最後の頁 174 ~ 186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/nutrit/nux070	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujii Yasuyuki, Suzuki Kenta, Hasegawa Yahiro, Nanba Fumio, Toda Toshiya, Adachi Takahiro, Taira Shu, Osakabe Naomi	4. 巻 682
2. 論文標題 Single oral administration of flavan 3-ols induces stress responses monitored with stress hormone elevations in the plasma and paraventricular nucleus	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Neuroscience Letters	6. 最初と最後の頁 106 ~ 111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neulet.2018.06.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakagawa Yuta, Ishimura Kana, Oya Satomi, Kamino Masaki, Fujii Yasuyuki, Nanba Fumio, Toda Toshiya, Ishii Takeshi, Adachi Takahiro, Suhara Yoshitomo, Osakabe Naomi	4. 巻 13
2. 論文標題 Comparison of the sympathetic stimulatory abilities of B-type procyanidins based on induction of uncoupling protein-1 in brown adipose tissue (BAT) and increased plasma catecholamine (CA) in mice	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0201203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0201203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsutsumi Ayaka, Horikoshi Yukari, Fushimi Taiki, Saito Akiko, Koizumi Ryo, Fujii Yasuyuki, Hu Qing Qiang, Hirota Yoshihisa, Aizawa Koichi, Osakabe Naomi	4. 巻 10
2. 論文標題 Acylated anthocyanins derived from purple carrot (<i>Daucus carota</i> L.) induce elevation of blood flow in rat cremaster arteriole	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Food & Function	6. 最初と最後の頁 728 ~ 735
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/c8fo02125b	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 MURAKAMI Satoshi, TAKAHASHI Shota, MUGURUMA Hitoshi, OSAKABE Naomi, INOUE Hitoshi, OHSAWA Tatsuya	4. 巻 -
2. 論文標題 Polyphenol Analysis in Black Tea with Carbon Nanotube Electrode	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Analytical Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2116/analsci.18P516	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Muguruma Hitoshi, Murakami Satoshi, Takahashi Shota, Osakabe Naomi, Inoue Hitoshi, Ohsawa Tatsuya	4. 巻 67
2. 論文標題 Separationless and Adsorptionless Quantification of Individual Catechins in Green Tea with a Carbon Nanotube/Carboxymethylcellulose Electrode	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Agricultural and Food Chemistry	6. 最初と最後の頁 943 ~ 954
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.jafc.8b05540	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Unno Tomonori, Osakabe Naomi	4. 巻 6
2. 論文標題 Green tea extract and black tea extract differentially influence cecal levels of short-chain fatty acids in rats	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Food Science & Nutrition	6. 最初と最後の頁 728 ~ 735
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/fsn3.607	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimamura Yuko, Utsumi Mio, Hirai Chikako, Nakano Shogo, Ito Sohei, Tsuji Ai, Ishii Takeshi, Hosoya Takahiro, Kan Toshiyuki, Ohashi Norio, Masuda Shuichi	4. 巻 23
2. 論文標題 Binding of Catechins to Staphylococcal Enterotoxin A	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Molecules	6. 最初と最後の頁 1125 ~ 1125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/molecules23051125	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakai Rika, Fukuda Shun, Kawase Masaya, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi	4. 巻 82
2. 論文標題 Curcumin and its derivatives inhibit 2,3,7,8,-tetrachloro-dibenzo-p-dioxin-induced expression of drug metabolizing enzymes through aryl hydrocarbon receptor-mediated pathway	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry	6. 最初と最後の頁 616 ~ 628
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09168451.2017.1386086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mitani Takakazu, Watanabe Shun, Yoshioka Yasukiyo, Katayama Shigeru, Nakamura Soichiro, Ashida Hitoshi	4. 巻 1864
2. 論文標題 Theobromine suppresses adipogenesis through enhancement of CCAAT-enhancer-binding protein degradation by adenosine receptor A1	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Biochimica et Biophysica Acta (BBA) - Molecular Cell Research	6. 最初と最後の頁 2438 ~ 2448
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbamcr.2017.09.017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wang Liuqing, Yamashita Yoko, Saito Akiko, Ashida Hitoshi	4. 巻 25
2. 論文標題 An analysis method for flavan-3-ols using high performance liquid chromatography coupled with a fluorescence detector	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Food and Drug Analysis	6. 最初と最後の頁 478 ~ 487
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jfda.2017.02.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Genovese Salvatore, Ashida Hitoshi, Yamashita Yoko, Nakgano Tomoya, Ikeda Masaki, Daishi Shirasaya, Epifano Francesco, Taddeo Vito Alessandro, Fiorito Serena	4. 巻 32
2. 論文標題 The interaction of auraptene and other oxyprenylated phenylpropanoids with glucose transporter type 4	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Phytomedicine	6. 最初と最後の頁 74 ~ 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.phymed.2017.06.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshioka Yasukiyo, Li Xiu, Zhang Tianshun, Mitani Takakazu, Yasuda Michiko, Nanba Fumio, Toda Toshiya, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi	4. 巻 60
2. 論文標題 Black soybean seed coat polyphenols prevent AAPH-induced oxidative DNA-damage in HepG2 cells.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition	6. 最初と最後の頁 108 ~ 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3164/jcbrn.16-48	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda Masaki, Ueda-Wakagi Manabu, Hayashibara Kaori, Kitano Rei, Kawase Masaya, Kaihatsu Kunihiro, Kato Nobuo, Sahara Yoshitomo, Osakabe Naomi, Ashida Hitoshi	4. 巻 22
2. 論文標題 Substitution at the C-3 Position of Catechins Has an Influence on the Binding Affinities against Serum Albumin	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Molecules	6. 最初と最後の頁 314 ~ 314
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/molecules22020314	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshioka Yasukiyo, Harada Etsuko, Ge Danyao, Imai Kunio, Katsuzaki Hirota, Mishima Takashi, Gabazza Esteban C., Ashida Hitoshi	4. 巻 33
2. 論文標題 Adenosine isolated from Grifola garga promotes glucose uptake via PI3K and AMPK signalling pathways in skeletal muscle cells	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Functional Foods	6. 最初と最後の頁 268 ~ 277
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jff.2017.03.050	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mitani Takakazu, Nagano Tomoya, Harada Kiyonari, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi	4. 巻 63
2. 論文標題 Caffeine-Stimulated Intestinal Epithelial Cells Suppress Lipid Accumulation in Adipocytes.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Nutritional Science and Vitaminology	6. 最初と最後の頁 331 ~ 338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3177/jnsv.63.331	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Croft Kevin D., Yamashita Yoko, O'Donoghue Helen, Shirasaya Daishi, Ward Natalie C., Ashida Hitoshi	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Screening plant derived dietary phenolic compounds for bioactivity related to cardiovascular disease	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Fitoterapia	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.fitote.2017.12.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 芦田 均	4. 巻 11
2. 論文標題 腸内環境からみたクロダイズポリフェノールの機能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 機能性食品と薬理栄養	6. 最初と最後の頁 338 ~ 342
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ito Mao, Kudo Naoto, Miyake Yuji, Imai Tatsuya, Unno Tomoki, Yamashita Yoko, Hirota Yoshihisa, Ashida Hitoshi, Osakabe Naomi	4. 巻 98
2. 論文標題 Flavan 3-ol delays the progression of disuse atrophy induced by hindlimb suspension in mice	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Experimental Gerontology	6. 最初と最後の頁 120 ~ 123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.exger.2017.07.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murakami Akira	4. 巻 62
2. 論文標題 Non-specific protein modifications may be novel mechanism underlying bioactive phytochemicals	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition	6. 最初と最後の頁 115 ~ 123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3164/jcbrn.17-113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井剛志、中山 勉	4. 巻 6
2. 論文標題 渋味を呈する難吸収性ポリフェノールの分子挙動解析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本ポリフェノール学会雑誌	6. 最初と最後の頁 18 ~ 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dainin Kohei, Ide Ryoko, Maeda Ayumi, Suyama Kyoza, Akagawa Mitsugu	4. 巻 486
2. 論文標題 Pyridoxamine scavenges protein carbonyls and inhibits protein aggregation in oxidative stress-induced human HepG2 hepatocytes	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 845 ~ 851
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2017.03.147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Imanishi Mia, Sonoda Motohiro, Miyazato Hironari, Sugimoto Keiichiro, Akagawa Mitsugu, Tanimori Shinji	4. 巻 2
2. 論文標題 Sequential Synthesis, Olfactory Properties, and Biological Activity of Quinoxaline Derivatives	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ACS Omega	6. 最初と最後の頁 1875 ~ 1885
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acsomega.7b00124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Furuhashi Mai, Hatasa Yukinori, Kawamura Sae, Shibata Takahiro, Akagawa Mitsugu, Uchida Koji	4. 巻 56
2. 論文標題 Identification of Polyphenol-Specific Innate Epitopes That Originated from a Resveratrol Analogue	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Biochemistry	6. 最初と最後の頁 4701 ~ 4712
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.biochem.7b00409	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Saihara Kazuhiro, Kamikubo Ryosuke, Ikemoto Kazuto, Uchida Koji, Akagawa Mitsugu	4. 巻 56
2. 論文標題 Pyrroloquinoline Quinone, a Redox-Active o-Quinone, Stimulates Mitochondrial Biogenesis by Activating the SIRT1/PGC-1 Signaling Pathway	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Biochemistry	6. 最初と最後の頁 6615 ~ 6625
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.biochem.7b01185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計257件（うち招待講演 37件 / うち国際学会 74件）

1. 発表者名 長谷川莉沙, 劉鞅韵, 北風智也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 アントパ由来カルコンによる脂肪分解と白色脂肪細胞のベージュ化促進効果
3. 学会等名 第74回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白岩真梨子, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 黒大豆種皮由来プロシアニジン高含有組成物による脂肪細胞分化抑制とその作用機構解明
3. 学会等名 第74回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 関子満里奈, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 黒大豆種皮抽出物による摂食の抑制とその作用機構
3. 学会等名 第74回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野村拓也, 北風智也, 芦田均
2. 発表標題 AhRによる体内時計の乱れを介した脂肪肝誘導のメカニズムとポリフェノールによる保護効果
3. 学会等名 第74回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣直賢勇, 光橋雄史, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 プロシアニジン組成物による食後血糖上昇抑制効果と概日リズムの関係
3. 学会等名 第74回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北風智也, 牧山敦志, 中井里香, 木村有希, 芦田均
2. 発表標題 ケンフェロールによるTCDD誘発性薬物代謝酵素発現誘導の抑制作用はルテオリンによって増強される
3. 学会等名 第74回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中航, 松山弘希, 横山大悟, 山下陽子, 芦田均, 窄野昌信, 榊原啓之
2. 発表標題 ApoE欠損マウスを用いた黒大豆種皮抽出物による血中/肝臓中脂質低下効作用の評価
3. 学会等名 第74回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井靖之, 伏見太希, 坂田純, 松永祥孟, 平修, 越阪部奈緒美
2. 発表標題 社会的敗北ストレスマウスに対するcinnamtannin A2の行動薬理学的検証
3. 学会等名 第74回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北風智也, 牧山敦志, 芦田均
2. 発表標題 ケンフェロールはTCDDによる薬物代謝酵素の発現誘導を抑制し、ルテオリンはその効果を増強させる
3. 学会等名 日本ビタミン学会第72回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山下陽子, 廣直賢勇, 芦田均
2. 発表標題 カカオポリフェノールのエネルギー代謝促進効果と概日リズムの関係
3. 学会等名 第7回日本時間栄養学会大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣直賢勇, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 プロシアニジンの摂取タイミングの違いが高血糖抑制効果に及ぼす影響
3. 学会等名 第59回日本栄養・食糧学会近畿支部大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長谷川莉沙, 北風智也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 アントパ由来カルコンによる白色脂肪のベージュ化促進効果について
3. 学会等名 第59回日本栄養・食糧学会近畿支部大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木 知里、太田 裕基、石井 剛志、向井 克之、赤川 貢
2. 発表標題 (-)-Epigallocatechin-3-O-gallateの胃粘膜細胞に対するレプチン分泌刺激作用の解明
3. 学会等名 第59回日本栄養・食糧学会近畿支部大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 手島知洋、藤井靖之、越阪部奈緒美
2. 発表標題 尿中カテコールアミン排出量の測定によるプロシアニジン単回投与による交感神経活動亢進作用の検証
3. 学会等名 日本農芸化学会関東支部2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井靖之、坂田純、伏見太希、平修、越阪部奈緒美
2. 発表標題 カテキンオリゴマーは青斑核-ノルアドレナリン作動性神経網を介して脳を活性化する
3. 学会等名 日本農芸化学会関東支部2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takuya Nomura, Tomoya Kitakaze, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Involvement of circadian disruption in AhR-caused fatty liver and wasting syndrome
3. 学会等名 Japanese Association for Animal Cell Technology (JAACT) 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kevin Omondi Odongo, Ken-yu Hironao, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Search for plant bio-active compound that promotes GLP-1 secretion: Development of a new GLP-1 ELISA
3. 学会等名 Japanese Association for Animal Cell Technology (JAACT) 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Taiki Fushimi, Ryo Koizumi, Yuki Sato, Yasuyuki Fujii, Hiroki Sato, Naomi Osakabe
2. 発表標題 B-type procyanidins affect on blood flow and NO production through the sympathetic nervous system
3. 学会等名 SfRBM 2020 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasuyuki Fujii, Yoshitomo Suhara, Yusuke Sukikara, Tomohiro Teshima, Yoshihisa Hirota, Kenjiro Yoshimura, Naomi Osakabe
2. 発表標題 Elucidation of the interaction between flavan-3-ols and bovine serum albumin and its effect on their in-vitro cytotoxicity
3. 学会等名 SfRBM 2020 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野村拓也, 北風智也, 芦田均
2. 発表標題 AhRを介した体内時計の変調に対するポリフェノールの抑制機構
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北風智也, 牧山敦, 芦田均
2. 発表標題 ルテオリンとケンフェロールの共作用による薬物代謝酵素の発現調節
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kevin Odongo, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Search for plant bio-active compound that promotes GLP-1 secretion: Development of a new GLP-1 ELISA
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白岩真梨子, 山下陽子, 向井克之, 芦田均
2. 発表標題 ペクトリナリゲニンの抗酸化能について
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣直賢勇, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 プロシアニジンの高血糖抑制効果は摂取タイミングにより異なる
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松山弘希, 田中航, 三好規之, 宮崎達雄, 道本英之, 榊原啓之
2. 発表標題 天日干しおよび生ダイコン摂取の血中トリグリセリド 低下効果
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田尻隼斗, 田中航, 松山弘希, 日高健太, 杉田卓也, 榊原啓之
2. 発表標題 摘果マンゴー熱水抽出物の90日間反復経口投与試験
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高島正勝, 田中航, 松山弘希, 田尻隼斗, 榊原啓之
2. 発表標題 ケルセチンが有する生体調節機能の母子間伝承性
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伏見太希, 越野秀啓, 小林紗子, 花城翔詠, 井上綾乃, 藤井靖之, 須原義智, 越阪部奈緒美
2. 発表標題 食品成分の侵害受容器を介した交感神経活動亢進作用の解明
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大山菜, 平嶋那由多, 伏見太希, 藤井靖之, 越阪部奈緒美
2. 発表標題 Cinnamtannin A2による廃用性筋萎縮抑制作用の検討
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井靖之, 坂田純, 手島知洋, 佐藤史隆, 牟田織江, 平修, 越阪部奈緒美
2. 発表標題 Cinnamtannin A2はノルアドレナリン作動性神経網を介して覚醒を維持する
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横 結衣, 杉本亮介, 丸毛 遥, 土井共生, 石坂朱里, 村上 明
2. 発表標題 フラボノイドの吸収機構における細胞外小胞の役割
3. 学会等名 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣直賢勇, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 プロシアニジンの高血糖抑制効果は摂取タイミングにより変化する
3. 学会等名 JSBBA KANSAI 7th Student Forum
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Taiki Fushimi, Yasuyuki Fujii, Kodai Inagawa, Akiko Saito, Ryo Koizumi, Masahiro Shibata and Naomi Osakabe
2. 発表標題 ESTABLISH OF THE METHODS FOR HEMODYNAMIC ALTERATION AFTER A SINGLE GAVAGE ADMINISTRATION TO RAT
3. 学会等名 SEATUC2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasuyuki Fujii, Noriko Nakao, Naomi Osakabe
2. 発表標題 Flavan 3-ols evoke locus coeruleus- noradrenaline neuron firing
3. 学会等名 SEATUC2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北風智也、野村拓也、芦田均
2. 発表標題 AhRの活性化による肝臓の脂質蓄積における時計遺伝子の関与とフラボノイドによる抑制効果
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kevin Odongo, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Development of a Low-Cost GLP-1 ELISA and Screening for Plant Bio-Active Compound that Promotes GLP-1 Secretion in STC-1 cells
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石野 正晃、北風 智也、牧山 敦志、芦田 均
2. 発表標題 ルテオリンによる肝臓での薬物代謝第2相酵素発現誘導に投与タイミングが及ぼす影響について
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田詩奈、中島賢則、卯川裕一、大江健一、向井理恵、芦田均、山下陽子
2. 発表標題 8-ブレニルナリングニンの肥満抑制効果
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武井 実花, TATIYANUKUL Chalinee, 田中 航, 榊原 啓之
2. 発表標題 未消化コーヒー焙煎豆の機能性
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松坂 祐希, 松山 弘希, 田中 航, 榊原 啓之
2. 発表標題 異なる脂質由来高脂肪食に対するマウスの選択性と過体重に与える影響
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中 航, 下位 香代子, 榊原 啓之
2. 発表標題 加齢が社会的ストレス負荷時の生体応答機構に与える影響
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伏見太希, 越野秀啓, 小林紗子, 花城翔詠, 井上綾乃, 藤井靖之, 須原義智, 越阪部奈緒美
2. 発表標題 カテキン重合物の侵害受容器を介した循環刺激作用の解明
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤井靖之, 伏見太希, 坂田純, 松永祥孟, 平修, 越阪部奈緒美
2. 発表標題 社会的敗北ストレスマウスに対するカテキンオリゴマーの行動薬理学的検証
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂田純, 藤井靖之, 佐藤文隆, 牟田織江, 伏見太希, 越阪部奈緒美
2. 発表標題 カテキン重合物の覚醒作用に関する検討
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河口詩歩、石坂朱里、村上 明
2. 発表標題 ファイトケミカルの継続処理による細胞のストレス耐性の変動
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤 衣織, 横田 しのの, 村留 梨花, 村上 明, 石坂 朱里
2. 発表標題 血液試料におけるquercetin 及び代謝物の定量方法
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永良 祐樹、赤川 貢、内藤 健太郎
2. 発表標題 アカメガシワ由来ポリフェノール、ベルゲニンのSIRT1/PGC-1 経路を介したミトコンドリア新生促進作用の解明
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 富岡 拓磨、石井 剛志、赤川 貢
2. 発表標題 ロスマリン酸によるNeuro-2a細胞のJNK/STAT3シグナル伝達経路の活性化を介した神経突起伸長作用の解明
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 越阪部奈緒美
2. 発表標題 食刺激と生活習慣病
3. 学会等名 第41回日本肥満学会・第38回日本肥満症治療学会合同大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chiaki Domaie, Fumio Nanba, Toshio Suzuki, Hitoshi Ashida, Yoko Yamashita
2. 発表標題 The effects of black soybean polyphenols on vascular function and its mechanism
3. 学会等名 The 9th Biennial Meeting of Society for Free Radical Reserch-Asia (SFRR-Asia) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoya Kitakaze, Atsushi Makiyama, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 A physiological concentration of luteolin induces antioxidant enzymes through the ERK1/2-mediated Nrf2/ARE pathway in human hepatoma HepG2 cells
3. 学会等名 The 9th Biennial Meeting of Society for Free Radical Reserch-Asia (SFRR-Asia) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下陽子, 難波文男, 鈴木利雄, 芦田均
2. 発表標題 黒大豆種皮由来ポリフェノールの脂肪蓄積予防効果とその作用機構
3. 学会等名 第73回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣直賢勇, 黄舒皎, 光橋雄史, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 カカオポリフェノール抽出物による時計遺伝子の調節とその作用機構解明
3. 学会等名 第73回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北風智也, 牧山敦志, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 ベンゾピレンによる時計遺伝子発現の異常に対するポリフェノール類の抑制効果について
3. 学会等名 第73回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hao Jiang, 吉岡泰淳, Sihao Yuan, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 Enzymatically modified isoquercitrin promotes energy metabolism through activating AMPK in C57BL/6 mice
3. 学会等名 第73回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北風智也, 牧山敦志, 芦田均
2. 発表標題 生理的濃度のルテオリンによるNrf2 の活性化と投与タイミングの影響
3. 学会等名 日本ビタミン学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Prevention of hyperglycemia by green tea for health
3. 学会等名 The Korean Society of Food Science and Technology (KoSFoST) 2019 International Symposium and Annual Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Roasted black soybean improved vascular function in human
3. 学会等名 13th Asian Congress of Nutrition 2019 (ACN2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoya Kitakaze, Atsushi Makiyama, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Molecular mechanism of physiological concentration of luteolin-Induced Nrf2 activation
3. 学会等名 13th Asian Congress of Nutrition 2019 (ACN2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hitoshi Ashida, Yasukiyo Yoshioka, Yoko Yamashita
2. 発表標題 Glabridin inhibits dexamethasone-induced muscle atrophy
3. 学会等名 13th Asian Congress of Nutrition 2019 (ACN2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 芦田均
2. 発表標題 生活習慣病予防に関わるポリフェノールの機能に関する研究
3. 学会等名 公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団第31回学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 芦田均
2. 発表標題 ポリフェノールパラドックスの解明をめざして
3. 学会等名 日本農芸化学会関西・中部支部2019年度合同神戸大会（関西支部第510回記念講演会・中部支部第186回講演会）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Risa Hasegawa, Yiyun Liu, Tomoya Kitakaze, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Promotion of lipolysis and browning by Ashitaba chalcones in differentiated 3T3-L1 cells via AMPK pathway
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hao Jiang, Yasukiyo Yoshioka, Sihao Yuan, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Enzymatically modified isoquercitrin promotes lipid and glucose metabolism through activating AMPK in C57BL/6 mice
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mariko Shiraiwa, Hitoshi Ashida, Yoko Yamashita
2. 発表標題 Black soybean seed coat extract prevents obesity and its signaling mechanism
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chiaki Domaie, Fumio Nanba, Toshinari Maruo, Toshio Suzuki, Hitoshi Ashida, Yoko Yamashita
2. 発表標題 Black soybean seed coat polyphenols improve vascular function by promoting NO production via GLP-1 secretion
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hitoshi Ashida, Yumi Samukawa, Yasukiyo Yoshioka, Yusuke Kubota, Yoko Yamashita
2. 発表標題 4-Hydroxyderricin and xanthoangelol from Ashitaba (<i>Angelica keiskei</i>) prevent dexamethasone-induced muscle atrophy
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoya Kitakaze, Atsushi Makiyama, Rika Nakai, Yuki Kimura, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Co-treatment with kaempferol and luteolin modulates TCDD- and t-BHQ-induced drug-metabolizing enzymes
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoya Kitakaze, Atsushi Makiyama, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Involvement of circadian rhythm on luteolin-induced Nrf2 activation in the liver
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Yamashita, Chiaki Doumae, Fumio Nanba, Toshinari Maruo, Toshio Suzuki, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 An intake of black soybean improved vascular function in human
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasukiyo Yoshioka, Xiu Li, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Black soybean seed coat polyphenols prevent AAPH-induced oxidative DNA damage in hepatic cells
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasukiyo Yoshioka, Yusuke Kubota, Yumi Samukawa, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Glabridin inhibits dexamethasone-induced muscle atrophy
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hitoshi Ashida, Yoko Yamashita
2. 発表標題 Anti-obesity and anti-diabetic effects of flavan-3-ols
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takuya Nomura, Tomoya Kitakaze, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Inhibitory mechanism of polyphenols for the disruption of circadian clock via AhR
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ken-yu Hironao, Shujiao Huang, Yuji Mitsuhashi, Hitoshi Ashida, Yoko Yamashita
2. 発表標題 Cacao polyphenols regulate the clock gene expressions in mice
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hitoshi Ashida, Megumi Aya, Yoko Yamashita
2. 発表標題 Fisetin, but not robinetin, promotes glucose uptake in skeletal muscle: Involvement of pyruvate kinase PKM and ATP-dependent RNA helicase DDX1
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Yamashita, Ken-yu Hironao, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Cacao polyphenol promotes energy metabolism under the circadian clock gene expressions
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tianshun Zhang, Qiushi Wang, Hitoshi Ashida, Zigang Dong
2. 発表標題 The Ashitaba (<i>Angelica keiskei</i>) chalcones 4-hydroxyderricin and xanthoangelol suppress melanomagenesis by targeting BRAF and PI3-K
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hitoshi Ashida, Yoko Yamashita, Kevin Croft
2. 発表標題 Prevention of hyperglycemia by quercetin and its derivatives
3. 学会等名 Innovative Horticulture for Healthy Foods Conference (IHFF2019) as a satellite conference for ICoFF2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣直賢勇, 光橋雄史, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 概日リズム依存的なプロシアニジン高含有食品素材の食後高血糖抑制効果の検証
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高垣晶子, 吉岡泰淳, 山下陽子, 長野智哉, 池田真規, 芦田均
2. 発表標題 緑茶カテキン主用代謝物である 5-hydroxyphenyl -valerolactone の L6 骨格筋細胞における糖取り込み促進作用
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長谷川莉沙, 劉軼韻, 北風智也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 アシタバ由来カルコンは 3T3-L1 脂肪細胞において脂肪 分解およびベージュ化を促進する
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野村拓也, 北風智也, 芦田均
2. 発表標題 AhR による体内時計の乱れを介した脂肪肝誘導のメカニズムとポリフェノールによる保護効果
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Matsuyama H., Tanaka W., Suzuki Y., Miyoshi N., Matsuura Y., Yukizaki C., Miyazaki T., Michimoto H., Sakono M., Sakakibara H.
2. 発表標題 Effects of raw and sun-dried radish roots (<i>Raphanus sativus</i> cv. YR-Hyuga-Risou) consumption on blood lipid levels in ApoE deficient mice
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka W., Matsuyama H., Yokoyama D., Hashizume Y., Tandia M., Sakono M., Sakakibara H.
2. 発表標題 Effects of daily consumption of monoglucosyl-rutin on diet-induced obese mice
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashima M., Kai C., Tanaka W., Matsuyama H., Sakono M., Sakakibara H.
2. 発表標題 Effects of quercetin consumption during pregnancy on lipid metabolism of the offspring in mice
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sakakibara H, Shimoi K.
2. 発表標題 Effects of polyphenol-rich plants on physiological responses for social stress
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka W., Matsuyama H., Yokoyama D., Ymashita Y., Ashida H., Sakono M., Sakakibara H.
2. 発表標題 Effects of black soybean seed coat extracts on blood lipid levels in ApoE deficient mice
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Matsuyama H., Tanaka W., Yokoyama D., Nishimura S., Matsumoto S., Sano T., Yamashita T., Sakono M., Sakakibara H.
2. 発表標題 Effects of consumption-timing and fat species on body weight gain in C57BL/6 mice
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ino K., Matsuyama H., Tanaka W., Sakono M., Sakakibara H.
2. 発表標題 Diurnal variation of polyphenol amounts in Sensitive plant (Mimosa pudica L.)
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中 航, 松山 弘希, 横山 大悟, 山下 陽子, 芦田 均, 窄野 昌信, 榊原 啓之
2. 発表標題 黒大豆種皮抽出物はApoE欠損マウスの血中脂質量を低下させる
3. 学会等名 第73回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井野花奈美, 松山弘希, 田中 航, 窄野昌信, 榊原啓之
2. 発表標題 オジギソウに含まれるポリフェノール類の日内変動
3. 学会等名 第23回生物機能研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤井靖之、中尾仁子、阿部啓子、平修、 越阪部奈緒美
2. 発表標題 Flavan 3-olsの摂食刺激は青班核-ノルアドレナリン作動性神経網を発火させる
3. 学会等名 第73回日本栄養食糧学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木健太、平嶋那由多、助川諒、山本采佳、上野友哉、越阪部奈緒美
2. 発表標題 Theaflavinによる廃用性筋萎縮抑制作用の検証
3. 学会等名 第73回日本栄養食糧学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naomi Osakabe, Yasuyuki Fujii
2. 発表標題 Astringency induces sympathomimetic physiological changes through excitation of locus correleus - noradrenaline system
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasuyuki Fujii, Taiki Fushimi, Jun Sakata, Shoma Matsunaga, Shu Taira, Naomi Osakabe
2. 発表標題 Cinnamtannin A2 reduces anxiety behavior induced by social defeat stress and improves spatial memory
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryo Koizumi, Yuki Sato, Taiki Fushimi, Naomi Osakabe
2. 発表標題 Comparison of B-type procyanidin oligomers on the sympathetic nerveactivation ability by the determination of hemodynamic alterations
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenta Suzuki, Nayuta Hirashima, Ryo Sukegawa, Yasuyuki Fujii, AyakaYamamoto, Tomoya Ueno, Naomi Osakabe
2. 発表標題 Theaflavins delay the progression of disuse atrophy induced by hindlimbsuspension in mice
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuiko Ishii, Masaki Kamino, Tomohiro Teshima, Minami Sakou, Yasuyuki Fujii, Naomi Osakabe
2. 発表標題 Flavan 3-ols represent browning ability in white adipose tissue
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasuyuki Fujii, Naomi Osakabe
2. 発表標題 Flavan 3-ols evoke locus coeruleus- noradrenaline neuron firing
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yota Fukuda, Naomi Osakabe, Takahiro Adachi
2. 発表標題 Elucidation of recognition mechanism of dorsal root ganglion for food factors
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taiki Fushimi, Ayaka Tsutsumi, Ryo Koizumi, Yasuyuki Fujii, Qing Qiang Hu2, Koichi Aizawa, Naomi Osakabe
2. 発表標題 Anthocyanins derived from purple carrot affect on the hemodynamic changes through adrenomimetic action
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nayuta Hirashima, Kenta Suzuki, Ryo Sukegawa, Yasuyuki Fujii, Ayaka Yamamoto, Tomoya Ueno, Naomi Osakabe
2. 発表標題 Theaflavin induces browning in inguinal white adipose
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木健太、平嶋那由多、大山菜、藤井靖之、越阪部奈緒美
2. 発表標題 CinnamtanninA2の廃用性筋萎縮に対する作用
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井 靖之, 中尾 仁子, 伏見, 坂田純, 松永, 阿部 啓子
2. 発表標題 Flavan 3-olsは青斑核-ノルアドレナリン作動性神経網を介して覚醒を維持する
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akira Murakami
2. 発表標題 Novel mechanisms underlying bioactivities of phytochemicals
3. 学会等名 The 5th International Symposium on "Convergence of Bio-Health and Food Science (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuki Nakagawa, Yosuke Iizumi, Takeshi Ishii, Hitoshi Ashida, Mitsugu Akagawa
2. 発表標題 A systematic and comprehensive analytical strategy to identify quercetin-modified proteins
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chisato Sasaki, Hiroki Ota, Takeshi Ishii, Katsuyuki Mukai, Akinobu Matsuyama, Mitsugu Akagawa
2. 発表標題 (-)-Epigallocatechin-3-O-gallate stimulates leptin secretion from gastric mucosal cells via 67-kDa laminin receptor/Ca ²⁺ signaling
3. 学会等名 The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 早川 諒、中川 侑紀、飯泉 陽介、石井 剛志、芦田 均、赤川 貢
2. 発表標題 フェニルホウ酸誘導体との親和性を利用したフラボノール標的タンパク質の網羅的分析法の開発
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 前迫一輝、豊島亮太、坂本裕香、石井剛志
2. 発表標題 ネイティブ電気泳動法を用いる植物性ポリフェノールの会合性評価
3. 学会等名 日本分析化学会第79回分析化学討論会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 タンキンイ、山田菜々子、瀬戸春香、赤川 貢、石井剛志
2. 発表標題 ポリビニルポリピロリドンとの結合に寄与するポリフェノールの構造特性の解析
3. 学会等名 第66回日本食品科学工学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tan, X., Maesako, K., Akagawa, M., Ashida, H., Ishii, T.
2. 発表標題 A new method for the purification of polyphenol-binding proteins by pull-down assay with polyvinylpolypyrrolidone
3. 学会等名 The 7th International Conference on Food Factors/ The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ICoFF2019/ISNFF2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北風智也, 牧山敦志, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 芳香族炭化水素受容体の活性化と抑制作用をもつ食品成分による時計遺伝子の発現変動について
3. 学会等名 第72回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉岡 泰淳, 久保田 祐介, 芦田 均
2. 発表標題 アシタバカルコンによる筋タンパク質分解抑制効果の検証とその分子機構解明
3. 学会等名 第72回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寒川祐美, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 アシタバカルコンによる筋タンパク質分解抑制効果の検証とその分子機構解明
3. 学会等名 第72回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三谷壘一, 片山茂, 芦田均, 中村宗一郎
2. 発表標題 テオプロミンは脱SUMO化酵素の発現を抑制することでC/EBP β のタンパク質分解を促進
3. 学会等名 第72回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小池亮裕, 難波文男, 戸田登志也, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 クロダイズ種皮由来ポリフェノールによる脂肪蓄積の抑制とその作用機構
3. 学会等名 第72回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 綾 恵弥, 白鞘大志, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 フラボノールのB環カテコール構造が筋肉細胞へのグルコース取り込み促進を介した食後高血糖予防効果に重要である
3. 学会等名 第72回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本美桜, 吉岡泰淳, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 クロダイズポリフェノールの非アルコール性脂肪肝疾患予防効果について
3. 学会等名 第72回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下陽子, 姜浩, 白鞘大志, 綾恵弥, 芦田均
2. 発表標題 ケルセチンとその配糖体が血糖調節に及ぼす効果
3. 学会等名 第72回 日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 カカオポリフェノールの肥満・高血糖予防について
3. 学会等名 第72回 日本栄養・食糧学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧山敦志, 北風智也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 生理的濃度のルテオリンによるNrf2を介した薬物代謝酵素の発現調節機構
3. 学会等名 第71回日本酸化ストレス学会第18回日本NO学会合同学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堂前千晶, 王柳青, 難波文男, 齋藤静, 戸田登志也, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 黒大豆の血管機能向上効果とその作用機構
3. 学会等名 第71回日本酸化ストレス学会第18回日本NO学会合同学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下陽子, 黄舒皎, 光橋 雄史, 芦田 均
2. 発表標題 カカオポリフェノールが時計遺伝子の発現に及ぼす影響について
3. 学会等名 第5回時間栄養科学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前千晶, 王柳青, 難波文男, 齋藤静, 戸田登志也, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 クロダイズが血管機能に及ぼす影響とその作用機構の解明
3. 学会等名 日本食品工学会第65回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 姜浩, 吉岡泰淳, 袁思豪, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 Prevention mechanisms of glucose intolerance and obesity by enzymatically modified isoquercitrin and quercetin in mice
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寒川祐美, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 アントパ由来カルコンによる筋萎縮抑制効果の検証とその分子機構の解明
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本美桜, 吉岡泰淳, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 クロダイズの非アルコール性脂肪肝炎予防効果について
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堂前千晶, 王柳青, 難波文男, 齋藤静, 戸田登志也, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 黒大豆ポリフェノールの血管機能向上効果とその作用機構の解明
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小池亮裕, 山下陽子, 芦田均, 難波文男, 戸田登志也
2. 発表標題 クロタイズ種皮由来ポリフェノールによる脂肪蓄積抑制効果とその作用機序
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧山敦志, 北風智也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 Nrf2/ARE経路を介した薬物代謝酵素の発現調節機構に生理的濃度のルテオリンが与える影響
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北風智也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 芳香族炭化水素受容体の活性化による時計遺伝子発現の変化に対する食品因子の作用
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下陽子
2. 発表標題 グラブリジンの筋肉量増加効果の作用機序
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 芦田均
2. 発表標題 黒大豆ポリフェノールの機能性
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Anti-diabetic and anti-obesity effects of natural flavonoids
3. 学会等名 4th International Conference and Exhibition on Natural Products, Medicinal Plants & Marine Drugs（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Health beneficial effects of black soybean
3. 学会等名 2018 International Phytonutrient Symposium（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前田歩海, 白鞘大志, 吉岡泰淳, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 ピペリンはTRPV1を介してAMPKを活性化し, グルコース取り込みを促進する
3. 学会等名 2018年度日本農芸化学会関西支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧山敦志, 北風智也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 生理的濃度域のルテオリンによるNrf2/ARE経路を介した薬物代謝酵素の発現調節機構
3. 学会等名 2018年度日本農芸化学会関西支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 王柳青, 山下陽子, 仲村明日賀, 中川純一, 難波文男, 齋藤静, 戸田登志也, 芦田均
2. 発表標題 黒大豆ポリフェノールの吸収, 代謝, 分布と排泄および血管機能に及ぼす影響に関する研究
3. 学会等名 2018年度日本農芸化学会関西支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daishi Shirasaya, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 The preventive effect of Italian propolis on postprandial hyperglycemia
3. 学会等名 International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yumi Samukawa, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Chalcones derived from ashitaba prevent dexamethasone-induced muscle protein degradation
3. 学会等名 International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoya Kitakaze, Atsushi Makiyama, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Luteolin induces expression of phase II drug metabolizing enzymes by modulating Nrf2/ARE pathway in HepG2 cells
3. 学会等名 International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mio Yamamoto, Yasukiyo Yoshioka, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Preventive effect of black soybean polyphenols on non-alcoholic steatohepatitis
3. 学会等名 International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Asuka Nakamura, Wang Liuqing, Fumio Namba, Shizuka Saito, Toshiya Toda
2. 発表標題 The effect of black soybean on vascular function in human trial
3. 学会等名 International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hitoshi Ashida, Manabu Ueda-Wakagi
2. 発表標題 Epigallocatechin gallate induces GLUT4 translocation in skeletal muscle through both PI3K- and AMPK-dependent pathway
3. 学会等名 International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yumi Samukawa, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 Ashiba chalcones prevent dexamethasone-induced muscle protein degradation
3. 学会等名 The31th Annual and International Meeting of the Japanese Association for Animal Cell Technology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Megumi Aya, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 B-ring catechol structure of flavonol is important for prevention of postprandial hyperglycemia via promotion of glucose uptake into muscle cells
3. 学会等名 The31th Annual and International Meeting of the Japanese Association for Animal Cell Technology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoko Yamashita, Asuka Nakamura, Liuqing Wang, Shizuka Saito, Fumio Nanba, Toshiya Toda, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 The effect of black soybean on vascular function
3. 学会等名 The 4th International Conference on Pharma and Food (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hitoshi Ashida, Yoko Yamashita
2. 発表標題 Health beneficial functions of black soybean polyphenols
3. 学会等名 The 4th International Conference on Pharma and Food (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北風智也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 Hepa1c1c7細胞における芳香族炭化水素受容体の活性化がBMAL1の発現に与える影響
3. 学会等名 第41回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下陽子, 吉岡泰淳, 久保田祐介, 芦田均
2. 発表標題 グラブリジンが筋萎縮予防におよぼす影響とその作用機構について
3. 学会等名 第57回日本栄養・食糧学会近畿支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧山敦志, 北風智也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 生理的濃度域でのルテオリンの投与タイミングの違いによる薬物代謝酵素の発現について
3. 学会等名 第57回日本栄養・食糧学会近畿支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寒川祐美, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 アシタバ由来カルコンによるステロイド性筋萎縮の抑制効果について
3. 学会等名 第57回日本栄養・食糧学会近畿支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 芦田均
2. 発表標題 ポリフェノール・パラドックスの観点からみたカテキンの機能性
3. 学会等名 第4回信州機能性食品開発研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北風智也、牧山敦志、山下陽子、芦田均
2. 発表標題 投与タイミングの違いが生理的濃度のルテオリンによるNrf2の活性化に与える影響
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下陽子、仲村明日賀、王柳青、堂前千晶、難波文男、斎藤静、鈴木利雄、三樹文男、芦田均
2. 発表標題 ヒト介入試験における黒大豆の血管機能に及ぼす効果
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堂前千晶、難波文男、鈴木利雄、芦田均、山下陽子
2. 発表標題 黒大豆ポリフェノールは一酸化窒素産生を促進して、血管機能を向上させる
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中航, 松山弘希, 横山大悟, 山下陽子, 芦田均, 窄野昌信, 榊原啓之
2. 発表標題 黒大豆種皮抽出物の摂取が脂質代謝・動脈硬化形成へ及ぼす影響
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横山大悟, 田中航, 橋爪雄志, Mahamadou Tandia, 窄野昌信, 下位香代子, 榊原啓之
2. 発表標題 グルコシルルチンはGIPの分泌抑制を介して食事誘発性肥満の進展を抑制する
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanaka Wataru, Yokoyama Daigo, Matsuura Yasushi, Nozaki Masahiko, Hirozawa Naoya, Kunitake Hisato, Sakono Masanobu, Sakakibara Hiroyuki
2. 発表標題 Subchronic toxicity evaluation of leaves from rabbiteye blueberry in rats
3. 学会等名 The 4th International Conference on Pharma and Food (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中航, 宍野昌信, 榊原啓之
2. 発表標題 ブルーベリー葉90日間反復経口投与試験による安全性評価
3. 学会等名 第2回みやざきブルーベリー葉栽培連絡協議会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akira Murakami, Akari Ishisaka, Sho Tanioka, Ryosuke Sugimoto, Misa Fujimoto
2. 発表標題 Stress-mediated mechanisms underlying bioactivities of phytochemicals
3. 学会等名 The 256th annual meeting of the American Chemical Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上明
2. 発表標題 東南アジア産野菜類は宝の山 (しかもほとんど手つかず!)
3. 学会等名 日本農芸化学会中四国支部 第35回 市民フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akira Murakami
2. 発表標題 Phytochemicals may exhibit bioactivities via hormesis: roles of proteo-stress and adaptation
3. 学会等名 9th International Conference on Nutrition and Physical Activity (NAPA 2018) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akira Murakami
2. 発表標題 Novel mechanisms underlying bioactivities of phytochemicals
3. 学会等名 The 5th International Symposium on "Convergence of Bio-Health and Food Science (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 越阪部奈緒美
2. 発表標題 食品因子による消化管センシングを介した生理発現機構
3. 学会等名 第72回日本栄養・食糧学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小泉涼、齋藤晃子、難波文男、戸田登志也、越阪部奈緒美
2. 発表標題 Flavan 3-ols構成成分の循環刺激作用の検証
3. 学会等名 第72回日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fujii Y., Kawagoe A., Suzuki K., Hasegawa Y., Osakabe N.
2. 発表標題 Stress response in hypothalamic paraventricular nucleus (PVN) after a single dose of procyanidin supplementation
3. 学会等名 The 256th annual meeting of the American Chemical Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Osakabe N.
2. 発表標題 The interaction between brain activation and peripheral physiological alteration
3. 学会等名 The 256th annual meeting of the American Chemical Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 海野裕真、松尾瑠美、守谷佳奈美、越阪部奈緒美、廣田佳久
2. 発表標題 Capsaicin のTRP channel およびTMEM を介した認識機構の検討
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神野将希、大矢さとみ、五十嵐悠樹、石井結子、手島知洋、難波文男、戸田登志也、越阪部奈緒美
2. 発表標題 Flavan 3-ols 反復投与のマウス骨格筋および脂肪細胞代謝に対する影響
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木健太、藤井靖之、長谷川八尋、平修、須原義智、越阪部奈緒美
2. 発表標題 CinnamtanninA2 投与後の視床下部室傍核におけるストレス応答反応の検証
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田陽大、安達貴弘、越阪部奈緒美
2. 発表標題 In vivo カルシウムイメージング法による食品成分の消化管における認識機構の解明
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤井靖之、鋤柄雄祐、戸田登志也、難波文男、廣田佳久、越阪部奈緒美
2. 発表標題 消化管知覚神経細株F11 に対するB タイプprocyanidin の細胞毒性の比較
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 越阪部奈緒美
2. 発表標題 フードファクターによる消化管センシングと機能性
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田陽大、越阪部奈緒美、安達貴弘
2. 発表標題 In vivo カルシウムイメージング法による食品成分の消化管における認識機構の解明
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤川 貢
2. 発表標題 緑茶カテキンの胃粘膜細胞に対するレプチン分泌刺激作用
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中川 侑紀、石井 剛志、芦田 均、赤川 貢
2. 発表標題 フェニルホウ酸誘導体との親和性を利用したフラボノール標的タンパク質の網羅的分析法の開発
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木 知里、太田 裕基、石井 剛志、向井 克之、松山 彰収、赤川 貢
2. 発表標題 (-)-Epigallocatechin-3-O-gallateの胃粘膜細胞に対するレプチン分泌刺激作用の機構解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前迫一輝、小林彰子、石井剛志
2. 発表標題 生体成分との親和性に関するロスマリン酸の構造特性
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井剛志
2. 発表標題 茶ポリフェノールの渋味とその生理的意義
3. 学会等名 第23回日本フードファクター学会学術集会・第12回日本ポリフェノール学会学術集会・第15回日本カテキン学会年次学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 タン キンイ、赤川 貢、芦田 均、石井剛志
2. 発表標題 ポリフェノール標的蛋白質の探索に資する新規精製技術の開発
3. 学会等名 第20回静岡ライフサイエンスシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 タン キンイ、赤川 貢、芦田 均、石井剛志
2. 発表標題 PVPPを用いるカテキン標的蛋白質の新規精製技術の開発
3. 学会等名 第34回茶学術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下陽子、中川格、岸田秀之、芦田均
2. 発表標題 グラブリジンの高血糖抑制効果について
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉岡泰淳, 難波文男, 戸田登志也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 黒大豆種皮ポリフェノールはTGF- β 1の誘導する肝線維化を阻害する
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三谷壘一, 片山茂, 中村宗一郎, 芦田均
2. 発表標題 テオブロミンはアデノシン受容体A1を介して脂肪の蓄積を抑制する
3. 学会等名 第71回日本栄養・食糧学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉岡泰淳, 李岫, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 黒大豆種皮由来ポリフェノールによる肝線維化抑制効果
3. 学会等名 第70回日本酸化ストレス学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jiang Hao, Yosgioka Yasukiyo, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi
2. 発表標題 The effect of kaempferol on glucose uptake in L6 myotubes
3. 学会等名 日本動物細胞工学会2017年度大会(JAACT2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 綾恵弥, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 フィセチンとロビネチンによる筋肉細胞の糖取り込み促進効果について
3. 学会等名 日本動物細胞工学会2017年度大会(JAACT2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白鞘大志, 長野智哉, 池田真規, 山下陽子, Genovese Salvatore, 芦田均
2. 発表標題 プロボリス由来成分による筋肉細胞への糖取り込み作用について
3. 学会等名 日本動物細胞工学会2017年度大会(JAACT2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 寒川祐美, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 アシタバカルコン4-hydroxyderricinによる筋萎縮抑制効果について
3. 学会等名 日本動物細胞工学会2017年度大会(JAACT2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 牧山敦志, 姜嵩岩, 北風智也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 ルテオリンによるNrf2を介した薬物代謝酵素の誘導調節
3. 学会等名 日本動物細胞工学会2017年度大会(JAACT2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 寒川祐美, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 アシタバカルコン 4-hydroxyderricinによる筋萎縮抑制効果について
3. 学会等名 第11回日本ポリフェノール学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小池亮裕, 難波文男, 戸田登志也, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 クロダイズ種皮由来ポリフェノールによる高血糖・肥満抑制効果とその作用機構
3. 学会等名 第11回日本ポリフェノール学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 仲村明日賀, 王柳青, 難波文男, 戸田登志也, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 クロダイズ種皮由来ポリフェノールによる高血糖・肥満抑制効果とその作用機構
3. 学会等名 第11回日本ポリフェノール学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本美桜, 吉岡泰淳, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 黒大豆ポリフェノールによる非アルコール性脂肪肝疾患の予防効果と作用機構の解明
3. 学会等名 第11回日本ポリフェノール学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白鞘大志, 長野智哉, 池田真規, 山下陽子, Salvatore Genovese, 芦田均
2. 発表標題 プロボリス由来prenyloxyphenylpropanoidsによる糖取り込み促進作用の作用機序解明
3. 学会等名 第11回日本ポリフェノール学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 綾恵弥, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 フィセチンとロビネチンの筋肉細胞への取り込み量と糖取り込み促進効果の関係について
3. 学会等名 第11回日本ポリフェノール学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 黄舒皎, 光橋雄史, 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 カカオポリフェノール抽出物の投与タイミングの違いによる血糖調節と時計遺伝子に及ぼす影響
3. 学会等名 第11回日本ポリフェノール学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 綾恵弥, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 FisetinとRobinetinによる筋肉細胞のGLUT4膜移行促進効果の差異について
3. 学会等名 日本ビタミン学会第69回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hao Jiang, Yasukiyo Yoshioka, Yoko Yamashita, Hitoshi Ashida
2. 発表標題 The effect of kaempferol on glucose uptake in L6 myotubes
3. 学会等名 日本食品科学工学会 第64回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 黄 舒皎, 山下陽子, 光橋雄史, 芦田均
2. 発表標題 カカオポリフェノール抽出物の投与タイミングの違いが高血糖抑制作用と時計遺伝子に及ぼす影響
3. 学会等名 日本食品科学工学会 第64回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山下陽子, 王柳青, 難波文男, 齋藤静, 戸田登志也, 芦田均
2. 発表標題 煎り黒大豆摂取がヒトの血管機能向上に及ぼす効果
3. 学会等名 日本食品科学工学会 第64回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 王柳青, 山下陽子, 難波文男, 齋藤静, 戸田登志也, 芦田均
2. 発表標題 煎り黒豆を継続摂取したヒト血中および尿中のポリフェノール濃度
3. 学会等名 日本食品科学工学会 第64回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 芦田均
2. 発表標題 黒大豆を食べて健康を維持しよう
3. 学会等名 フードサイエンスフォーラム第23回学術集会 サテライト市民公開講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉岡泰淳, 李岫, 山下陽子, 芦田 均
2. 発表標題 黒ダイズ種皮抽出物は四塩化炭素の誘導する肝の線維化を抑制する
3. 学会等名 フードサイエンスフォーラム第23回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 ヒト介入試験による黒大豆の血管機能向上効果について
3. 学会等名 フードサイエンスフォーラム第23回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 寒川祐美, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 アントパカルコン4-hydroxyderricinはデキサメタゾン誘導性の筋タンパク質分解を抑制する
3. 学会等名 フードサイエンスフォーラム第23回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 王柳青, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 マウスにおけるプロシアニジンの体内動態
3. 学会等名 日本農芸化学会 関西・中四国・西日本支部 2017年度合同大阪大会 (第49回講演会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北風智也, 牧山敦志, 芦田均
2. 発表標題 ルテオリンの HepG2 細胞における薬物代謝酵素発現調節機構
3. 学会等名 日本農芸化学会 関西・中四国・西日本支部 2017年度合同大阪大会 (第49回講演会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ashida Hitoshi, Kubota Yusuke, Yoshioka Yasukiyo, Yamashita Yoko
2. 発表標題 Glabridin inhibits glucocorticoid-induced muscle atrophy in C2C12 cells and C57BL/6J mice
3. 学会等名 8th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ashida Hitoshi, Nakai Rika, Yamashita Yoko
2. 発表標題 Curcumin and its derivatives inhibit TCDD-induced expression of drug metabolizing enzymes
3. 学会等名 8th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kitakaze Tomoya, Makiyama Atsushi, Ashida Hitoshi
2. 発表標題 Luteolin increases antioxidant enzymes expression by modulating Nrf2/ARE pathway in HepG2 cells
3. 学会等名 8th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshioka Yasukiyo, Li Xiu, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi
2. 発表標題 Black soybean seed coat polyphenols prevent fibrosis in the liver of mice via suppression of lipid peroxidation and inhibition of TGF- β /Smads signaling pathway
3. 学会等名 8th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Aya Megumi, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi
2. 発表標題 Fisetin, but not robinetin, promotes glucose uptake in skeletal muscle cells
3. 学会等名 8th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi
2. 発表標題 Procyanidin prevents hyperglycemia through promoting translocation of glucose transporter 4 in muscle cells
3. 学会等名 8th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ashida Hitoshi, Kubota Yusuke, Yoshioka Yasukiyo
2. 発表標題 Glabridin inhibits muscle atrophy through p38/FOXO3a and Glucocorticoid receptor signals
3. 学会等名 IUNS 21st International Congress of Nutrition (IUNS 21st ICN) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 芦田均
2. 発表標題 ポリフェノール・パラドックスの観点からみたカテキンの機能性に関する考察
3. 学会等名 第14回日本カテキン学会年次学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池田真規, 芦田均
2. 発表標題 血糖調整作用を有するEGCg の標的分子探索
3. 学会等名 第14回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本美桜, 吉岡泰淳, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 黒大豆種皮抽出物は肝臓の酸化ストレスを抑制する
3. 学会等名 第56回日本栄養・食糧学会近畿支部大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白鞘大志, 池田真規, 長野智哉, 山下陽子, Salvatore Genovese, 芦田均
2. 発表標題 プロポリス由来成分による高血糖予防効果の解明
3. 学会等名 第56回日本栄養・食糧学会近畿支部大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 寒川祐美, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 アシタバカルコンによる筋タンパク質分解抑制効果に関する研究
3. 学会等名 第56回日本栄養・食糧学会近畿支部大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 寒川祐美, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 アシタバカルコンによるデキサメタゾン誘導性筋タンパク質分解抑制効果に関する研究
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 牧山敦志, 北風智也, 山下陽子, 芦田均
2. 発表標題 ルテオリンによるNrf2を介した薬物代謝酵素の誘導調節機構
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白鞘大志, 池田真規, 山下陽子, Genovese Salvatore, 芦田均
2. 発表標題 プロポリス由来成分による高血糖予防効果の作用機序解明
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池田真規, 上田学, 長野智哉, 芦田均
2. 発表標題 骨格筋におけるGLUT4の細胞膜移行を促進するEGCgの標的分子探索
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 芦田均
2. 発表標題 ポリフェノールの機能性：現状と展開
3. 学会等名 腸内環境・腸内微生物叢を標的にした高機能農林水産物開発プラットフォーム講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 芦田均, 山下陽子
2. 発表標題 腸内環境からみた黒大豆ポリフェノールによる健康長寿
3. 学会等名 第15回日本機能性食品医用学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 芦田均
2. 発表標題 クロダイズポリフェノールの機能性について～細胞試験、動物実験、臨床試験の成果～
3. 学会等名 宮崎大学大学院農学工学総合研究科，資源循環ユニット・食の科学ユニット合同講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 綾 恵弥，白鞘 大志，山下 陽子，芦田 均
2. 発表標題 フラボノールによるグルコース取り込み促進効果にはB環のカテコール構造が重要である
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jiang Hao, Yoshioka Yasukiyo, Yamashita Yoko, Ashida Hitoshi
2. 発表標題 Kaempferol ameliorates glucose uptake via AMPK- and JAK/STAT-pathways in L6 myotubes
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 真規，芦田 均
2. 発表標題 筋肉細胞においてGLUT4の細胞膜移行を促進させるEGCgの標的分子探索
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下 陽子, 津田 孝範, 芦田 均
2. 発表標題 プロシアニジンの高血糖抑制効果とその作用機構についての比較検討
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中航, 日高 遥, 横山 大悟, 松浦 靖, 野崎 雅彦, 廣澤 直也, 宍野 昌信, 榊原 啓之
2. 発表標題 雄性SDラットにおけるブルーベリー葉粉末の90日間反復経口投与試験
3. 学会等名 フードサイエンスフォーラム第23回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yokoyama Daigo, Nohara Chiaki, Sogon Tetsuya, Sakono Masanobu, Sakakibara Hiroyuki
2. 発表標題 Daily consumption of bilberry anthocyanins might increase their absorption rate in rats
3. 学会等名 8th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横山大悟, 穉久千夏, 橋爪雄志, Mahamadou Tandia, 宍野昌信, 下位香代子, 榊原啓之
2. 発表標題 食事誘発性肥満に対するモノグルコシルルチンの予防機構
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中航、日高遥、横山大悟、松浦靖、野崎雅彦、廣澤直也、窄野昌信、榊原啓之
2. 発表標題 ブルーベリー葉粉末の長期摂取による生体パラメーターへの影響
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野原千愛、横山大悟、荘巖哲哉、窄野昌信、榊原啓之
2. 発表標題 ビルベリー抽出物の日常摂取がアントシアニンの吸収に与える影響
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Osakabe Naomi, Terao Junji
2. 発表標題 Possible mechanisms of postprandial physiological alterations following flavan 3-ol ingestion
3. 学会等名 8th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Fujii Yasuyuki, Suzuki Kenta, Hasegawa Yahiro, Osakabe Naomi
2. 発表標題 tress response in PVN induced by flavan 3-ols
3. 学会等名 8th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大矢 さとみ、神野 将希、難波 文男、戸田 登志也、越阪部 奈緒美
2. 発表標題 Flavan 3-olsの代謝亢進作用の解明
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 羽里 直幹、黒木 麻由、難波 文男、戸田 登志也、安達 貴弘、越阪部 奈緒美
2. 発表標題 消化管によるcinnamtannin A2の認識機構の探索
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村上 明
2. 発表標題 ファイトケミカルの作用機構をホルミシスの概念で理解する
3. 学会等名 日本食品・機械研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村上 明
2. 発表標題 亜熱帯産ショウガ科植物成分のユニークな機能性と作用機構
3. 学会等名 第32回日本香辛料研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前迫一輝、辻 愛、小林麻貴、伊藤圭祐、小林彰子、赤川 貢、越阪部奈緒美、石井剛志
2. 発表標題 渋味を呈するポリフェノールの分子特性解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻 愛、石田菜摘、小林麻貴、川畑球一、赤川 貢、石井剛志
2. 発表標題 ウーロンホモビスブラバン類の消化管タンパク質に対する強力な修飾作用
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中川侑紀、石井剛志、芦田 均、赤川 貢
2. 発表標題 フェニルホウ酸誘導体との親和性を利用したフラボノイド標的タンパク質の網羅的解析法の開発
3. 学会等名 第14回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 辻 愛、石田菜摘、小林麻貴、赤川 貢、石井剛志
2. 発表標題 烏龍茶重合ポリフェノールの生体成分に対する分子挙動とその構造特性
3. 学会等名 第14回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今西 望愛、園田 素啓、宮里 博成、杉本 圭一郎、赤川 貢、谷森 紳治
2. 発表標題 キノキサリン誘導体の簡便合成と香気ならびに生理活性評価
3. 学会等名 第61回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田将太、赤川 貢、甲斐建次
2. 発表標題 PEG導入型アフィニティービーズを用いた微量AHL合成酵素のプルダウン
3. 学会等名 日本農芸化学会 関西・中四国・西日本支部 2017年度合同大阪大会（第49回講演会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 太田 裕基、石井 剛志、向井 克之、松山 彰収、赤川 貢
2. 発表標題 (-)-Epigallocatechin-3-gallate の胃粘膜細胞に対するレプチン分泌刺激作用の発見
3. 学会等名 第14回日本カテキン学会年次学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前田 歩海、白尾 健、吉岡 泰淳、赤川 貢、山下 陽子、芦田 均
2. 発表標題 ピペリンによるROSの産生を介したグルコース取り込み促進作用の解明
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 太田 裕基、石井 剛志、向井 克之、松山 彰収、赤川 貢
2. 発表標題 (-)-Epigallocatechin-3-gallateの胃粘膜細胞に対するレプチン分泌刺激作用の発
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 楠 ひかり、奥山 真衣、上久保 綾祐、原田 直樹、内藤 健太郎、赤川 貢
2. 発表標題 トマト由来成分tomatidineによる肝細胞の脂肪蓄積抑制作用の解明とその機構解析
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田 宏樹、石井 恵、赤川 貢
2. 発表標題 プロピオン酸の糖新生抑制作用の解明とその作用機構の解析
3. 学会等名 第22回日本フードファクター学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小川 満利子、才原 一浩、池本 一人、内田 浩二、赤川 貢
2. 発表標題 生理的濃度におけるpyrroloquinoline quinone (PQQ) のミトコンドリア新生促進作用の解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下 知佳、井出 涼子、甲斐 建次、須山 享三、赤川 貢
2. 発表標題 Pyridoxamineによる網膜色素上皮細胞保護効果の検証と機構解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 榊原啓之, 下位香代子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 シーエムシー出版	5. 総ページ数 287
3. 書名 抗疲労・抗ストレス・睡眠改善食品の開発：抗ストレス機能の評価法	

1. 著者名 越阪部奈緒美、藤井靖之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 シーエムシー出版	5. 総ページ数 353
3. 書名 スパイス・ハーブの機能と応用 素材編： 第 5 章 双子葉植物 9 シソ科（オレガノ、セージ、シソ、タイム、ミント他）	

1. 著者名 中村 宜督、榊原 啓之、室田 佳恵子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 256
3. 書名 エッセンシャル食品化学	

1. 著者名 芦田均、薩秀夫、中野長久	4. 発行年 2017年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 251
3. 書名 非栄養素の分子栄養学	

〔出願〕 計1件

産業財産権の名称 中神経賦活剤	発明者 越阪部奈緒美、藤井 靖之、伏見大希	権利者 芝浦工業大学
産業財産権の種類、番号 特許、特願2020-53459	出願年 2020年	国内・外国の別 国内

〔取得〕 計0件

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	榊原 啓之 (Sakakibara Hiroyuki) (20403701)	宮崎大学・農学部・教授 (17601)	
研究分担者	越阪部 奈緒美 (Osakabe Naomi) (30554852)	芝浦工業大学・システム理工学部・教授 (32619)	
研究分担者	村上 明 (Murakami Akira) (10271412)	兵庫県立大学・環境人間学部・教授 (24506)	
研究分担者	赤川 貢 (Akagawa Mitugu) (70405356)	大阪府立大学・生命環境科学研究科・准教授 (24403)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石井 剛志 (Takeshi Ishii) (50448700)	神戸学院大学・栄養学部・准教授 (34509)	
研究分担者	山下 陽子 (Yoko Yamashita) (10543796)	神戸大学・農学研究科・准教授 (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	University "G. D' Annunzio"			
オーストラリア	The University of Western Australia			